(財)日本ハンドボール協会　新理事会発足

昨年10月26日の臨時理事会においてアジア選手権大会終了を区切りに執行部の信任を問うとの決議がなされた。これを受けた評議員会は小委員会を設けてこれに検討を委ねた。小委員会は検討を重ね人事の全面的な見直しを行うことを決定し、理事候補の人選を行いさらに3月15日の全国評議員会議で審議し15名の理事を選出した。

その結果を受け、3月21日の理事会において互選により会長、副会長、専務理事を選出、さらに専務理事推薦の理事が5名が決定、新理事会が発足する運びとなった。

会長	斎藤英四郎
副会長	立石　孝雄
〃	米倉　功
〃	渡邊　佳英
専務理事	中澤　重夫
理事	植村　繁
〃	山下　泉
〃	大西　武三
〃	井　薫
〃	殿水　幸雄
〃	須藤　健児
〃	清水　正
〃	尾高　義彦
〃	平田　幸男
〃	大塚　文男
〃	竹野　奉昭
〃	木野　実
〃	西村　亮治
〃	小西　博喜
〃	恩田　健一
監事	松本　重雄
〃	大野　金一
参事	中村　崇
〃	森　恭一
〃	村井　輝邦
〃	吉田　定静
〃	松原　忠
〃	森　豊夫
〃	柳井　文治

尚、常務理事以下の役職、担当業務は4月18日の臨時理事会で決定する



新役員のごあいさつ

セクショナリズをなくし自由に意見を出し合おう！

副会長　渡邉佳英

今回、全国評議員会の要請により、日本ハンドボール協会副会長に就任することになりました。

私の父も以前副会長をつとめておりましたので、親子二代にわたっての副会長職であり、責任の重さを痛感しております。

従来より、全日本実業団ハンドボール連盟、東京都ハンドボール協会の二つ会長職をつとめさせて頂いておりますので、横の方から日本協会をながめさせてもらっておりました。現在、協会は多くの問題点をかかえていると思います。ただ、大きな目標はハンドボールをいかにメジャーなスポーツにするかということだけだと思います。その目標のために、一つ一つ問題点を解決していかなければなりません。

私が最初に実行したいことを申し上げておきます。それは、日本協会内部の風通しを良くすることです。セクショナリズムをなくし、「なにが協会にとってプラスになるか」ということです。ハンドボールを愛好する人たちの集まりですから、全員が常に前向きに物を考え、自由に意見を出し合うことが肝要だと思います。

今日までハンドボールを育ててくれた多くの愛好者の考えを集約し、この中からベストのものを活用する。このことによって、協会内部の風通しが良くなります。

新しい専務理事を中心にしての新しい発想の転換が、日本のハンドボールを普及・発展させるものと確信しております。

今年のバルセロナ・オリンピック大会には不幸にして男女とも出場できませんが、次のアトランタ・オリンピック大会を目指して既にスタートを切っています。男子は、3月にオーストリアのウィーンで開かれた男子世界選手権大会Bグループには新しいナショナルチームが出場し、アトランタへ向けての、なんらかの手応えを感じとったものと思います。新しい監督、新しい選手と、〝新〟ずくめです。女子についても今年の11月に女子世界選手権大会Bグループがリトアニアで開催されますが、男子同様心を新たにしてアトランタを目指しスタートを切って頂きたいと思いますし、皆さんでナショナルチームを応援しましょう。

アジアの片隅にいる日本は、ヨーロッパチームとの交流が少ないため、どうしても国際試合の経験が不足しています。近隣の韓国、中国、台湾チーム等と手を携えてアジアハンドボールの技術を向上させることも大切です。

また、ヨーロッパの優秀なチームを日本に招待し、日本のハンドボールの愛好者に本場のハンドボールを理解していただき、皆でハンドボールを育てる環境をつくっていきたいと思います。



新役員のごあいさつ

新たなる出発に向けてご支援・ご協力を！

専務理事　中澤重夫

私は、このたび理事の皆様のご推挙によって、専務理事に就任することとなりましたが、その大任さを考えるとあらためて身も引締まる思いが致します。

今回の日本ハンドボール協会執行部役員の任期途中の役員再編成という主旨を考えるとき、その職責は容易に果たし得るものではありません。私と共に選出された役員の皆様と共に、全力を傾注して参りたいと思います。また、関係各位の方々の絶大なるご協力をお願い申し上げます。

昨年8月、広島市において開催されたハンドボールアジア選手権兼バルセロナ・オリンピックアジア地区予選において、我々の代表であった、男・女ナショナルチームが敗退しました。ミュンヘン・オリンピック以来連続出場を果たして来たオリンピックへの出場の道がとざされたわけです。日本のハンドボール人すべての人の夢がここに消え、挫折感をいやというほど受ける所となったのであります。今までも決して安易な道ではなかったのですが、みんなが息を詰まる思いで心配し、心から声援を送る意を受けて、選手たちもふんばってくれ今日まで来たのだと思います。しかし、それでも負けるに至った今、じり貧にならぬうちに、もう一度好転のきっかけを見つけたいと考え、永い間並々ならぬ努力を重ねた協会執行部の労を謝しながら再編人事に踏みきった日本協会評議員会の意を充分に理解しなければならないと思います。

今ここで4年後におとずれる、アトランタ・オリンピックアジア予選に向けて早速その道をさぐらなければなりません。また、途中広島のアジア大会あり、男・女世界選手権への道も当然全力でぶつからなければなりません。そして我々のハンドボールのすばらしさを、あらゆる人たちに知ってもらう機会を多くつくらなければならないと思います。強力なすばらしい選手をつくること、この選手たちは強力なチームとなり、そのプレーはすばらしく、多くの観衆が集り、それが応援団(ファン)であり、大切な後援者(スポンサー)ともなると思うのは私だけでないと思います。

選手をつくること、それはどの時期から、どの年令から、そしてそれを指導する人は、その財源はと展開して参ります。このあたりは今までも心ある方々皆考えておられることでしょう。今までの協会執行部も決して手をこまねいておったわけではないと思いますが、それが今までよりほんの少しでも我々新役員の手でピッチを早めることができ、それを機に好転し、上向きにかえられることを強く念願するものであります。また、もう一つの大事な基盤ともいうべき普及関係についてですが、各都道府県協会、各連盟、各専門委員会の要望を充分吟味して、日本の進むべき道を決めなければならないと思います。

いろいろな具体的な方策等はまた別な機会に述べさせていただくこととしたいと思いますが、日本のハンドボールをささえる多くの方々のご意見、絶大なるご支援・ご協力を心からお願い申し上げる次第であります。

第15回全国高校選抜大会

男子 浦和学院 女子 四天王寺 に栄冠が輝く

平成3年度（第15回）全国高校選抜大会を終って

愛知県ハンドボール協会　村木啓作

3月24日（火）から28日（土）までの5日間、愛知県体育館、枇杷島スポーツセンター（25日のみ）を会場に全国9ブロックから選抜された男女各30チームの参加で開催した本年度の全国高等学校ハンドボール選抜大会は成功裡に終ることが出来ました。全国の皆様方のご支援のたまものと感謝致しております。

早いもので、第1回大会を愛知県で開催致しましてからもう15回（第3回のみ山口県で開催）になりました。今回は15回記念大会ということで例年よりチーム数が各4チーム多く、大会会場も25日だけは2会場になりました。

24日は午後3時より開会式のみを行いましたが、その際5回、10回以上出場チームの表彰も併せて行われ、5回以上は男子16校、女子13校、10回以上は男子3校、女子6校の監督に全国高等学校体育連盟ハンドボール部より表彰状が須藤部長より渡されました。引続き午後6時より場所を名古屋通信会館に替え、記念祝賀会が行われ、同所で感謝状が、後援団体、後援会社、並びに地元関係者、高体連ハンドボール部顧問、参与の方々に渡され、その後なごやかな雰囲気の中で祝賀会が行われました。



25日より競技が開始されました。何分競技日程が非常に過密であるため早朝9時20分から午後8時までの第一日の日程は選手にとってもまた審判員、競技役員にとっても正直大変であります。もっと余裕のある日程で競技がやれたらとは思いますが、何分にもチームの負担等を考えるならば致しかたないことか思います。

今年は名古屋城の桜が例年ですと大会期間中には十分花も開き遠来の方々にも楽しんでもらえるのですが、生憎天候にはあまり恵まれず雨の日が多く肌寒い日がありました。しかしながら大会の盛り上がりはそんなものを完全に吹き飛ばしてしまうほど今年も私たち運営に携わるものに感動を与えてくれるものでした。

年々全国から応援にお見えになる方々も増加いたしております。例年のことではありますが、第3日準々決勝、準決勝の日の観客数は延べ5,000人を越えているほどです。特に今年は女子準々決勝の地元名短付と昭和学院の試合には通路はもちろん、立見までてる盛況には長い間携わっていたものでもびっくりするぐらいでした。

どの試合も高校生の精一杯の力が発揮され、見るものは大変心を動かされるものばかりでした。

開催県としましては、毎年財政面、運営面で苦労していることは確かですが、しかし、逆にその大変さにあまりあるほどの多くの物を残して行ってくれています。高いレベルの試合を目の当りにしていることは大変意義深いものです。例年の開催で、若干マンネリに陥っている点は避けられないかとは思いますが、しかし少しでも多くの方々の助言を得てよりよい大会にしていきたいと考えています。来年、再来年の開催も愛知県と決定して頂いております。ぜひ春は愛知県に選抜大会を観戦にお越し下さい。

男子

1回戦

洛　北（京都）19〔8−8／11−8〕16 **拓大一**（東京）

〔戦評〕互いに早いボール回しで一進一退で試合が進んだ。拓大一の高い攻めに対し洛北は厳しい守りとGK樋口の好守により拓大一のリズムを崩した。後半になると流れは洛北。キャプテン川瀬、サイドシューター藤井のシュートが要所で決まり、拓大一の追い上げも届かず3点差で洛北が全員の機動あふれるプレーで勝利を収めた。

〔拓大一〕		得
GK	須田	0
GK	樋口	0
FP	水落	3
FP	佐々木	6
FP	小野	1
FP	相原	4
FP	永田	0
FP	高森	2
FP	荒谷	0
FP	横山	0
FP	和方	0
FP	岩間	0
		16

〔審・渡辺 楓〕

得〔洛北〕		
0	樋口	GK
0	水上	GK
2	川瀬	FP
7	藤井	FP
6	向井	FP
0	下村	FP
1	北篠	FP
1	中川	FP
0	立岡	FP
2	土田	FP
0	渡辺	FP
0	草川	FP
19		

桃山学院（大阪）15〔7−1／8−9〕10 **愛　知**（愛知）

〔戦評〕1回戦の緊張のためか両チームともなかなかペースがつかめず攻めあぐんでいたが、スピードのある桃山の攻めに愛知のディフェンスは警告退場、ペナルティーの続出で徐々に点差を広げられて前半を終了した。後半、強気の攻めに転じた愛知はGK鈴木の好守をきっかけに3点差にまで追いつく勢いを見せたが、桃山も気落ちすることなく、前半にもまさるスピードで攻撃をしかけ、リードを保ち2回戦へ勝ち進んだ。

〔愛知〕		得
GP	林	0
GP	鈴木	0
FP	後藤	1
FP	伊藤	0
FP	落合	3
FP	野田	2
FP	笹辺	0
FP	野田	1
FP	加藤	1
FP	橋爪	0
FP	大野	2
		10

〔審・内藤 細沢〕

得〔桃山〕		
0	元村	GP
0	辻田	GP
0	野田	FP
1	中野	FP
6	大野	FP
3	文平	FP
1	河村	FP
0	大熊	FP
1	河合	FP
1	西村	FP
2	藤谷	FP
0	尾山	FP
15		

市　川（千葉）29〔11−3／18−5〕8 **土　佐**（高知）

〔戦評〕前半、市川は西谷のポストシュートで先取し、その後、福田、猪野、安生のロングシュートなどで加点する。土佐は市川の高い守りとGKの好守で攻撃が単調になりなかなかペースがつかめず前半は11−3と市川のリードで終了。後半に入っても土佐は市川のスピードある攻撃を止めることができず市川の一方的なゲームとなった。結果は、総合力に勝る市川が大差で勝利をものにした。

〔土佐〕		得
GK	西岡	0
GK	浜田	0
FP	久松	2
FP	永野	3
FP	山中	1
FP	大坪	0
FP	亀山	2
FP	山岡	0
FP	堤	0
FP	依光	0
FP	筒井	0
FP	谷口	0
		8

〔審・伊藤 尾崎〕

得〔市川〕		
0	百瀬	GK
9	福田	FP
8	西谷	FP
3	猪野	FP
3	黒坂	FP
0	香月	FP
1	湯本	FP
5	安生	FP
29		

那　賀（和歌山）18〔9−8／9−6〕14 **函大有斗**（北海道）

〔戦評〕両チーム共に1・5ディフェンスをひく攻守ともにスタイルの似たチームの対戦となった。開始からミドルシュートを中心に両チームとも得点を重ねる。中盤リズムよく加点した那賀が9−6とリードするが、その後有斗もロング、ポストで食い下がり9−8と那賀の1点リードで前半を折り返した。後半開始から有斗が西川を中心に必死の追い上げを見せるが、那賀GKの好守に阻まれてなかなか追いつけない。一方、那賀も有斗ディフェンスをなかなか攻め切れず差を広げることができないまま一進一退の攻防が続いた。結局、要所でエース赤山が得点していった那賀が18−14で接戦をものにした。

〔有斗〕		得
GK	坂本	0
GK	納谷	0
FP	西川	5
FP	和泉	0
FP	斉藤	1
FP	佐藤	2
FP	橋本	0
FP	山口	4
FP	宇枝	2
FP	佐藤	0
FP	沖野	0
FP	阿部	0
		14

〔審・渡邊 石原口〕

得〔那賀〕		
0	岸	GK
0	山下	GK
0	青柳	FP
5	赤山	FP
0	岡本	FP
6	加藤	FP
3	亀井	FP
2	中内	FP
2	上西	FP
0	牧浦	FP
0	住岡	FP
18		

北　陸（福井）33〔15−6／18−11〕17 **土浦日大**（千葉）

〔戦評〕前半立ち上がり、北陸・荒尾のロングシュートが連続で決まった。北陸のディフェンスは1・5のプレス・ディフェンスを行ない、土浦日大はとまどいから無理な状況からシュートを打ったり、パスミスが目立ち、北陸は3分以降7連続得点をした。一時北陸は網干、南と連続退場者を出し、土浦日大は盛り返したが、北陸は個個のシュート力があり、前半を15−6で終えた。後半も土浦日大は北陸のディフェンスの早いつめにとまどい、なかなかシュートを打つチャンスがなかなかった。10分以降、大差のためラフなプレーが目立った。北陸のプレス・ディフェンスの良さとGKの好守、そして個々のシュート力が勝っていた。

〔土浦〕		得
GK	中津	0
GK	中村	0
FP	遠藤	0
FP	鈴木	3
FP	小松崎	7
FP	茅場	1
FP	堀越	2
FP	加藤	1
FP	久保田	0
FP	鶴見	0
FP	長沢	0
FP	堀内	3
		17

〔審・渡辺 楓〕

得〔北陸〕		
0	佐々木	GK
0	安藤	GK
0	神吉	FP
4	鈴島	FP
6	南	FP
10	荒尾	FP
4	網干	FP
8	中根	FP
1	北川	FP
0	原	FP
0	砂山	FP
0	面屋	FP
33		

市岐阜商（岐阜）20〔12−8／8−11〕19 **興　南**（沖縄）

〔戦評〕試合は激しい動きで始まった。まず興南・田場がPTを決めた。市岐阜商もキャプテン北島がPTを決め互角のスタート。興南はキャプテン外間(貴)がチャンスをつくり、エース田場が積極的にシュートを打つ。対する市岐阜商はシュートミス、チャージングでチャンスをつぶすが、GKの好守から速攻をうまくつなぎ、前半12分5−5の同点。一進一退の展開であったが、22分、速攻をつないだ市岐阜商が水島のポストプレーでPTを得、北島が確実に決め1点リード。その後ディフェンスをがんばり、北島がよく走り、前半は市岐阜商が12−8とリードした。

後半、市岐阜商はスタートからサイドがよく働き6点差に広げる。興南は棚原のサイド、外間（貴）の速攻、田場のロングで対抗。後半20分までは2、3点差の展開。ここで興南は外間(貴)が気迫のカットイン、田場も苦しいところを走り抜き、うまくブロックのかかったところからロングシュート、ついに残り1分に1点差に追いつ

〔興南〕		得
GK	伊禮	0
GK	西原	0
FP	与座	1
FP	田場	9
FP	宮城	0
FP	楚南	0
FP	外間	5
FP	外間	0
FP	川満	0
FP	仲田	0
FP	松田	0
FP	棚原	4
		19

〔審・井上 能波〕

得〔岐阜商〕		
0	岡崎	GK
0	石川	GK
7	北島	FP
0	二村	FP
4	堀	FP
0	奥村	FP
2	永田	FP
1	田中	FP
2	馬場	FP
0	坂	FP
4	水島	FP
0	後藤	FP
20		

いた。そして残り30秒、マイボールとなる。フリースローラインの中央でフリースローを得る。エース田場は最後の力をふりしぼるが、市岐阜商の必死のディフェンスの前にシュートを打ちきれず、遂にノータイムの一投もディフェンスの壁に当たり、市岐阜商が前半のリードを守って勝利を得た。

下松工（山口） 21 〔8－6 13－7〕 13 青森商（青森）

〔戦評〕前半、青森商サウスポー工藤のロングシュートが決まり、口火が切られた。両者警告退場と荒い試合展開となったが、下松工がロング、ポストのシュートが決まり、青森商もポスト、速攻が決まり、下松工が8－6と先行する。後半、下松工が退場を続出させ、リズムを崩すかに見えたが、逆にそのハンディをスピードでカバーして原田がサイド、速攻と加点し、それにGK坂田の守りも良く、下松工が21－13と8点差で勝った。

得	〔下松工〕	
0	坂田	GK
0	亀山	GK
5	保科	FP
5	田村	FP
0	仲子	FP
4	原田	FP
3	九十九	FP
2	佐藤	FP
0	山根	FP
0	中村	FP
2	岩本	FP
0	渡部	FP
21		

〔審・光安 徳前〕

〔青森商〕	得	
大澤	0	GK
木立	0	GK
工藤	5	FP
神	0	FP
川本	1	FP
田村	4	FP
珍田	2	FP
泉	0	FP
吉川	1	FP
毛内	0	FP
山口	0	FP
桜田	0	FP
	13	

久工大附（福岡） 39 〔18－4 21－4〕 8 釧路江南（北海道）

〔戦評〕前半10分頃より久留米工大附の一方的な試合となる。得点のほとんどは一線防御からの速攻である。フィールド・プレーヤーのパスカット、シュートカットより、またGKの好守によるものである。釧路江南も得点差からか後半に入るとミス、反則などが多くなり、攻守の切り替えの早い久工大附はそれもすべて速攻に結びつけた。

得	〔久工大〕	
0	武井	GK
0	森	GK
5	池辺	FP
2	田中	FP
5	高木	FP
9	波戸辺	FP
4	白	FP
2	飯田	FP
3	森田	FP
5	河野	FP
1	井手	FP
3	石川	FP
39		

〔審・石原口 渡邊〕

〔釧路〕	得	
宮沢	0	GK
村川	0	GK
高橋	1	FP
村下	0	FP
植本	0	FP
石川	0	FP
内海	0	FP
春日	2	FP
畠山	0	FP
松村	1	FP
平野	4	FP
紺田	0	FP
	8	

学法石川（福島） 27 〔16－3 11－3〕 6 長浜北（滋賀）

〔戦評〕立ち上がり、学法石川が早い出足の粘り強いディフェンスで相手のリズムを崩し、速攻などで着々と得点を重ねて16分までに8－0と優位に試合を運ぶ。一方長浜北はなかなか相手ディフェンスの間を割ることができず、ロングシュートを打たされる形になった。GKの好守にもあい得点できなかったが、17分にやっと速攻から得点した。その後、学法石川は得点を重ね、前半を16－3で終わる。後半に入っても試合の流れは変わらず、小さなミスを重ねる長浜北に対し学法石川は速攻やミドルシュートがよく決まり点差を広げていった。長浜北のGK水上はよく頑張っていたが、スピードに乗ったシュートは防ぎようがなかった。

得	〔石川〕	
0	郷	GK
0	吉田	GK
5	窪小谷	FP
1	須釜	FP
3	高野	FP
2	国井	FP
0	遠藤	FP
5	丹内	FP
1	石川	FP
9	吉田	FP
0	近藤	FP
1	山田	FP
27		

〔審・松原 榊原〕

〔長浜北〕	得	
水上	0	GK
八若	0	GK
伊藤	1	FP
中野	0	FP
吉川	2	FP
伊藤	1	FP
西澤	0	FP
織田	0	FP
塚田	0	FP
橋本	2	FP
宮田	0	FP
佐野	0	FP
	6	

国学院栃木（栃木） 18 〔9－12 9－4〕 16 香川中央（香川）

〔戦評〕前半は香川中央が得点すれば国学院栃木がすぐに追いかける展開となった。やや攻撃力に勝る香川中央が17分頃から差をつけはじめ3点のリードで前半を終了した。後半開始早々、国学院栃木がロングシュートを決め波に乗るかと思われたが、香川中央も速攻、ポストシュートで得点を重ね、前半と同じ展開となった。しかし、後半20分、疲れの見えた香川中央から4連続得点をあげた国学院栃木が逆転した。

得	〔国学院〕	
0	道本	GK
0	黒田	GK
0	淀縄	FP
0	真鍋	FP
2	小牧	FP
6	秋山	FP
5	山崎	FP
0	村田	FP
1	七五三掛	FP
1	蓬田	FP
3	新村	FP
0	舟橋	FP
18		

〔審・永田 足立〕

〔香川〕	得	
黒川	0	GK
香西	0	GK
深谷	7	FP
横手	0	FP
岡	1	FP
宮本	1	FP
岡	1	FP
高崎	2	FP
西村	4	FP
上原	0	FP
	16	

大分電波（大分） 22 〔7－10 9－6 3－1 3－3〕 20 横浜商工（神奈川）

〔戦評〕立ち上がり5秒、横浜商工・戸村のロングシュートでゲームがスタートした。その後、キャプテン高橋を中心にコートを走り回り、コンビネーションを組み得点をした。一方大分電波は、横浜商工の強力なディフェンスの壁に阻まれ、5分まで得点をあげることができない。しかし、緊張がとれてきた大分は野村のシュートが入り出し、前半を7－10で折り返す。後半に入り、大分は横浜の攻撃に対しディフェンスのチェックを強力にした。両者とも激しい攻防となり、20分、大分が同点に追いつき、そのまま延長戦に入る。

延長前半、大分が阿部のポスト

得	〔電波〕	
0	伊東	GK
0	増田	GK
2	阿部	FP
0	松本	FP
0	峰	FP
1	宇多村	FP
1	今村	FP
4	老沼	FP
2	金丸	FP
12	野村	FP
0	是永	FP
0	三宮	FP
22		

〔審・勝本 源野〕

〔横浜〕	得	
藤田	0	GK
瓜生	0	GK
谷	0	FP
戸村	7	FP
植松	7	FP
高橋	4	FP
加藤	0	FP
福本	0	FP
森田	0	FP
高橋	1	FP
阿部	1	FP
小俣	0	FP
	20	

シュートで先行。しかし横浜もすぐにPTで追いつく。だが波に乗ってきた大分が連続2得点、そのリードを守り逃げ切った。

育英（兵庫）20〔9−8／11−9〕17 氷見（富山）

〔戦評〕互いに点を入れ合う形で始まった。育英の固い守りからの多彩な攻撃でリードするかに見えたが、雑なシュートミスからもつれたゲーム展開となった。後半、育英は足を生かした速攻、速い展開からのサイドシュートでリードしていった。氷見も育英のシュートミスにつけ込み、速攻から追い上げていった。終了5分前、育英は退場者を出し、氷見はキャプテン秋山のカットインで追いついた。しかし、地力に勝る育英が追いすがる氷見をスピードとパワーでふりきった。

	〔氷見〕	得
GK	山下	0
GK	谷島	0
FP	秋山	5
FP	海下	3
FP	山口	1
FP	穴田	3
FP	久保	0
FP	宇波	0
FP	稲積	0
FP	大門	0
FP	玄	4
FP	張田	1
		17

〔審・小林・土屋〕

	得	〔育英〕
GK	0	田中
GK	0	杉本
FP	0	中尾
FP	4	中野
FP	0	吉野
FP	6	大原
FP	2	清水
FP	3	久保
FP	2	竹下
FP	3	神子島
FP	0	土居
FP	0	狩谷
	20	

中京（愛名）16〔5−9／11−6〕15 不来方（岩手）

〔戦評〕中京の2点先取で始まったゲームであったが、その後得意の足やロングシュートが生かせず、苦しまぎれのポストへのパスも不来方の粘り強いディフェンスに阻まれ得点も伸びなかった。一方不来方もロングシュートは決められなかったもののポストへよくつなぎ得点を重ね前半を8−4とリードした。不来方のスカイプレーの得点により始まった後半はそのプレー同様華やかな展開となり、得点のとり合いとなった。ここで中京は攻守とも足を生かしシュートをほぼ得点に結びつけるなど後半10分過ぎに12−12の同点に追いついた。その後一進一退の展開となったが、終了寸前のPTで中京が逆転勝ちを飾った。

	〔不来方〕	得
GK	菊地	0
GK	阿部	0
FP	大矢	3
FP	根子	3
FP	大信田	2
FP	千田	1
FP	吉田	5
FP	角掛	1
FP	川村	0
FP	柴内	0
FP	武田	0
FP	工藤	0
		15

〔審・矢沢・田井〕

	得	〔中京〕
GK	0	堀内
GK	0	田代
FP	5	近藤
FP	2	岩村
FP	4	金子
FP	3	片岡
FP	1	小関
FP	1	後藤
FP	0	鬼頭
FP	0	田中
FP	0	杉山
FP	0	梅田
	16	

境港工（鳥取）21〔12−2／9−8〕10 四日市工（三重）

〔戦評〕前半立ち上がりより両チームともフットワーク軽くよく走り、攻守が早いペースで入れ替っていた。四日市工にパスミスが何度かあり、シュートチャンスに恵まれず、逆に境港工は確実にペースをつかみ得点につなげていった。後半に入り四日市工もペースをつかみ互角の展開を見せたが、前半の点差が大きく、追い上げはかなわなかった。

	〔四日市〕	得
GK	浜田	0
GK	中根	0
FP	水野	3
FP	荒木	0
FP	服部	1
FP	桜木	3
FP	深沢	0
FP	臼井	2
FP	廣森	0
FP	岩間	1
FP	達知	0
FP	草川	0
		10

〔審・村佐・尾谷〕

	得	〔境港工〕
GK	0	能見
FP	5	道田
FP	7	荒木
FP	6	岡島
FP	1	木下
FP	2	中橋
FP	0	藤本
FP	0	船越
FP	0	伊藤
FP	0	池渕
FP	0	寺本
	21	

2回戦

熊本市商（熊本）21〔10−9／11−10〕19 洛北

〔戦評〕立ち上がり、熊本市商は緒戦のためか緊張気味でミスが目立ちリードを許したが、時間とともに地力を発揮し、1点リードで前半を終了した。後半、洛北は動きの良い向井をマンツーマンでマークされたものの残り4分で同点に追いつく。しかし、残り1分で退場を出し突き放された。

	〔洛北〕	得
GK	樋口	0
GK	水上	0
FP	川瀬	3
FP	藤井	2
FP	向井	9
FP	北條	4
FP	中川	1
FP	立岡	0
FP	土田	0
FP	渡辺	0
FP	草川	0
		19

〔審・渡辺・楓〕

	得	〔熊本〕
GK	0	中村
GK	0	富永
FP	0	森川
FP	0	新井
FP	0	森川
FP	1	村上
FP	8	米満
FP	0	原田
FP	0	永田
FP	5	森山
FP	4	池田
FP	3	北原
	21	

市川 19〔8−8／11−6〕14 桃山学院

〔戦評〕両チーム共に体力に優れ試合立ち上がりよりスピード感あふれる展開となり、前・後半を通じてよく走れていた。ディフェンスも両チームともに固く、開始後5分間はどちらも得点にならなかった。わずかなスキをつく速攻などで点をつなぐが、前半は点差がつかなかった。後半立ち上がりから市川のペースができてきて、最後5分くらいで点差を広げていった。両チームとも脚力があり、滞空時間の長いジャンプは見応えがある好試合であった。

	〔桃山〕	得
GK	元村	0
GK	辻田	0
FP	野田	0
FP	中野	2
FP	大野	5
FP	文平	0
FP	河村	5
FP	大熊	0
FP	河合	0
FP	西村	1
FP	藤谷	1
FP	尾山	0
		14

〔審・徳光・前安〕

	得	〔市川〕
GK	0	百瀬
FP	7	福田
FP	2	西谷
FP	6	猪野
FP	0	黒坂
FP	0	香月
FP	1	湯本
FP	3	安生
	19	

北陸 21〔11−7／10−9〕16 那賀

〔戦評〕開始早々、北陸・網干のステップシュートで1点決まるもその後は互いの出足鋭いディフェンスとGKの好守で5分経過しても得点に変化なし。守りからの速い攻めで突破口を見つけた北陸が荒尾の3連続得点などで少しずつ点差を広げ、11−7で前半を終了。

後半も流れが変らず、GK安藤からの速攻で順調に得点を加算した北陸が21－16で粘る那賀を下した。

得	〔北陸〕		〔那賀〕	得
0	佐々木	GK	岸	0
0	安藤	GK	山下	0
0	神吉	FP	青柳	1
2	鈴島	FP	赤山	0
3	南	FP	坪野	0
7	荒尾	FP	岡本	0
3	網干	FP	加藤	10
3	中根	FP	亀井	1
3	北川	FP	中内	2
0	原	FP	上西	2
0	砂山	FP	牧浦	0
0	面屋	FP	小林	0
21		審・永田・足田		16

下松工 20 （8－6、12－6） 12 市岐阜商

〔戦評〕試合開始当初、両チームともミスが目立ち、5分過ぎまで1－1であったが、市岐阜商・北島のミドルシュート、堀のサイドから回り込んでのシュートなどで加点した。一方、下松工も9分まで加点がなかったが、原田のサイドシュート、速攻、保科のポストシュートなどで前半15分に6－5と逆転した。市岐阜商は下松工の長身・岩本にシュートカットされ、なかなか得点できず前半は8－6と下松工のリードで終えた。後半に入って、下松工は岩本、九十九、原田らが着々と得点したのに対し市岐阜商も水島のポスト、スカイなどで得点するが、下松工の高いディフェンスに阻まれ、20－12で下松工が2回戦を突破した。

得	〔下松工〕		〔岐阜商〕	得
0	坂田	GK	岡崎	0
0	亀山	GK	石川	0
6	保科	FP	北島	2
2	田村	FP	二村	0
0	仲子	FP	堀	2
5	原田	FP	奥村	0
0	石崎	FP	永田	1
3	九十九	FP	田中	1
1	佐藤	FP	馬場	1
0	山根	FP	坂	0
3	岩本	FP	水島	4
0	渡部	FP	後藤	0
20		審・佐谷・村尾		12

久工大附 23 （11－4、12－6） 10 学法石川

〔戦評〕前半12分過ぎまで学法石川は久留米の高いディフェンスに阻まれ得点をあげることができず苦しい立ち上がりとなった。一方久留米は池辺の高いポストを使い次々と得点をあげる。学法石川も相手ミスからの速攻などで得点、11－4で前半を終了。後半、波に乗った久留米は速いパスワークを巧みに使い得点をあげる。学法石川は吉田、窪小谷らのシュートが入り出し追い上げを図るが、点差が大きく及ばなかった。

得	〔久工大〕		〔石川〕	得
0	武井	GK	郷	0
0	森	GK	吉田	0
6	池辺	FP	窪小谷	4
6	田中	FP	須釜	0
1	高木	FP	高野	3
5	波戸辺	FP	国井	0
1	白	FP	渡辺	0
0	飯田	FP	丹内	1
4	森田	FP	石川	0
0	河野	FP	吉田	2
0	井手	FP	近藤	0
0	石川	FP	菊地	0
23		審・勝本・源野		10

大分電波 19 （11－5、8－7） 12 国学院栃木

〔戦評〕前半、大分電波は老沼、野村のカットインからのくずしで得点を重ねていった。特に野村はカットイン、ロング、速攻と一人で8点をたたき出した。国学院は大分電波の速いつめのディフェンスにペースがつかめず得点できなかった。後半に入り、国学院は野村にマンツーマンでディフェンスしペースをつかもうとする。しかし、大分のGK伊東にシュートをことごとくはじかれ、ペースをつかめなかった。終始自分のペースでゲームを進めた大分電波が勝ち上がった。

得	〔電波〕		〔栃木〕	得
0	伊東	GK	道本	0
0	増田	GK	黒田	0
1	阿部	FP	淀縄	0
0	松本	FP	真鍋	0
0	峰	FP	小牧	2
1	宇多村	FP	秋山	0
2	今村	FP	山崎	3
2	老沼	FP	村田	0
1	金丸	FP	七五三掛	1
12	野村	FP	蓬田	4
0	是永	FP	新村	1
0	三宮	FP	舟橋	1
19		審・能波・井上		12

育英 19 （8－8、11－9） 17 中京

〔戦評〕中京は前半開始から近藤を中心に速いパス回しからリズムの良い攻めをし、先行していく。一方、育英も固いディフェンスからの速攻、巧みなフォーメーションプレーにより巻き返し逆転する。3人の退場を出した中京も勢いと粘りで同点とし前半を折り返す。後半に入り、育英は中野のロング、速攻と得点して突き放そうとするが、粘る中京もカットインプレーでついていくが育英が逃げ切った。

得	〔育英〕		〔中京〕	得
0	田中	GK	堀内	0
0	杉本	GK	田代	0
0	中尾	FP	近藤	8
8	中野	FP	岩村	1
0	吉原	FP	金子	6
1	大原	FP	片岡	1
3	清水	FP	小関	0
1	久保	FP	後藤	1
2	竹下	FP	鬼頭	0
4	神子島	FP	田中	0
0	土居	FP	杉山	0
0	狩谷	FP	梅田	0
19		審・村松・小山		17

浦和学院（埼玉） 21 （8－5、13－8） 13 境港工

〔戦評〕互いに持ち味を出しスピードのあるゲームであった。はじめはほぼ互角で、両GKがよく守りしまった展開の中から徐々に浦和がリードしていった。後半開始早々、浦和に退場者が続けて出たので境港工のペースかと思われたが、浦和のゴールを諸橋がよく守った。境港工は荒木のロングシュートで追いすがるが、固い守りからの速攻を中心に全員がよく走った浦和がふり切った。

得	〔浦和〕		〔境港工〕	得
0	諸橋	GK	能見	0
0	中野	GK		
9	須藤	FP	道田	2
1	大邑	FP	荒木	6
4	佐藤	FP	岡島	3
3	小山	FP	木下	2
2	北川	FP	中橋	0
0	奥村	FP	藤本	0
1	雑賀	FP	船越	0
1	紅林	FP	伊藤	0
0	星野	FP	池渕	0
0	佐々木	FP	寺本	0
21		審・沢井・矢田		13

3回戦

熊本市商 18 〔8－6／10－9〕 15 市川

〔戦評〕お互いのディフェンスが良く、決め手を欠き、ゆっくりしたペースで試合が進む。ポストへのパスが通り、3連続得点した市川が主導権を握るかに見えたが、逆に米満、池田の高いブロックとGK中村にロングシュートを止められ、連続4得点した熊本市商が2点リードして前半を終了した。後半、高いブロックが冴えた熊本市商がじりじり点差を広げ13分には5点差となった。ここで市川は熊本市商の米満にマンツーマンでつき攻めを乱すが一歩及ばずに終った。

〔市川〕		得
GK	百瀬	0
FP	福田	4
	西谷	3
	猪野	4
	黒坂	1
	香月	0
	湯本	0
	安生	3
		15

〔熊本〕		得
GK	中村	0
	富永	0
FP	森川	0
	新井	0
	森川	0
	村上	0
	米満	4
	原田	2
	永田	0
	森山	7
	池田	2
	北原	3
		18

〔審・勝本 源野〕

下松工 24 〔11－8／13－11〕 19 北陸

〔戦評〕北陸はよく前につめるディフェンスから中根への速攻へとつなぎ先制をしたが、下松工は相手ディフェンスのスキをつき原田、田村がサイドから得点しリードを奪う。その後一進一退の展開が続いたが、15分頃から下松工がチャンスを確実に得点に結びつけ6－3とした。北陸はその後南、荒尾が連続得点をし一時は6－6の同点としたが、下松工が岩本、保科の活躍で前半を11－8とし、やや有利で折り返した。後半に入って、北陸は下松工・保科をマンツーマンしたが、下松工は5対5で広くなったディフェンスの間を岩本、九十九がとび込み、14分に16－11とした。北陸もよく走り、荒尾の活躍でノーマークやペナルティーを得たが、下松工GK坂田の好守に阻まれ追いつくことができなかった。

〔北陸〕		得
GK	佐々木	0
	安藤	0
FP	神吉	0
	鈴島	1
	南	3
	荒尾	10
	網干	1
	中根	1
	北川	3
	原	0
	砂山	0
	面屋	0
		19

〔下松工〕		得
GK	坂田	0
	亀山	0
FP	保科	7
	田村	6
	仲子	0
	原田	2
	九十九	3
	佐藤	2
	山根	0
	中村	0
	岩本	4
	渡部	0
		24

〔審・小林 土屋〕

久工大附 20 〔10－7／10－5〕 12 大分電波

〔戦評〕九州勢同士の対戦となりスローペースな試合運びであった。久留米は最初から大分の野村にマンツーマンにつき、大分も久留米の田中にマンツーマンについた。18分頃まで一進一退の攻防が続いたが、大分が速攻、ポストとシュートチャンスを逃がし、その間、久留米は高木のサイドシュート、波戸辺のステップシュートが連続して決まり3点差で折り返す。後半もスローペースで始まり、大分の野村、久留米の田中はマンツーマンでつかれた。8分には久留米のミスが続き一時は大分が1点差まで詰め寄ったが、16分過ぎに大分は連続退場者を出し、久留米がその間に連続得点をあげ突き放した。

〔電波〕		得
GK	伊東	0
	増田	0
FP	阿部	2
	松本	0
	峰	0
	宇多村	0
	今村	2
	老沼	3
	金丸	0
	野村	5
	松田	0
	三宮	0
		12

〔久工大〕		得
GK	武井	0
	森	0
FP	池辺	2
	田中	3
	高木	3
	波戸辺	6
	白	3
	飯田	2
	森田	1
	河野	0
	諸岡	0
	石川	0
		20

〔審・細沢 内藤〕

浦和学院 27 〔14－11／13－12〕 23 育英

〔戦評〕前半開始から両チームスピードに乗った攻撃展開。先制点は育英・中野の速攻からのロングシュート、その後浦和も多彩な攻撃を見せ、8分、ルーズボールを紅林が押し込んで逆転、さらに左腕・佐藤の活躍などで引き離しにかかるが、育英も中野、竹下の高射砲で追撃、14－11で前半を終えた。後半も浦和がポストをうまく使って着実に加点すれば、育英も久保が縦横無尽にコートを駆けピタリと追走、17分に2点差につめ寄ったが反撃もここまで。

〔育英〕		得
GK	田中	0
FP	中尾	0
	中野	9
	吉野	0
	大原	4
	清水	1
	久保	4
	竹下	5
	神子島	0
	土居	0
	杉本	0
	狩谷	0
		23

〔浦和〕		得
GK	諸橋	0
	中野	0
FP	須藤	6
	大邑	6
	佐藤	4
	小山	2
	北川	2
	奥村	1
	雑賀	0
	紅林	6
	星野	0
	佐々木	0
		27

〔審・能波 井上〕

準決勝

熊本市商 20 〔7－11／13－7〕 18 下松工

〔戦評〕下松工は全員がむらなく走って得点をかせぎ前半4分過ぎ4－1とリード。対して熊本市商は主砲・米満がロングシュートをよく決め、森山が速い動きでシュートを決め11－7と下松工が4点リードして前半を終了。後半、熊本市商は速攻、ロングシュートがよく決まり、8分過ぎ14－13と逆転に成功。下松工もロングシュー

〔下松工〕		得
GK	坂田	0
	亀山	0
FP	保科	7
	田村	2
	仲子	0
	原田	3
	九十九	0
	佐藤	2
	山根	0
	中村	0
	岩本	4
	渡部	0
		18

〔熊本〕		得
GK	中村	0
	富永	0
FP	新井	1
	森川	0
	村上	0
	米満	7
	原田	0
	永田	0
	森下	0
	森山	6
	池田	4
	北原	2
		20

〔審・勝本 源野〕



トをよく決め対抗するが、熊本市商にスカイプレーが出だすなど調子に乗り、結局20－18で熊本市商が勝利を収めた。

浦和学院 21（10－9、11－8）17 久工大附

〔戦評〕立ち上がりは浦和が3連続得点でペースをつかんだのに対し久留米は9分過ぎにようやく初得点。その後、両チームとも小きざみに得点し、残り5分となったところで久留米が4連続得点し遂に8－8の同点に追いついたが、最後に浦和が2連続得点で前半を1点差で終了。後半は浦和が須藤、大邑の活躍で得点を重ねていったのに対し、久留米は田中のロングで応戦したが、その差が出て結局4点差で浦和が決勝進出を果たした。

〔久工大〕	得
GK 武井	0
GK 森	0
FP 池内	1
FP 田中	9
FP 高木	1
FP 波戸辺	4
FP 白	1
FP 飯田	0
FP 森田	1
FP 河野	0
FP 井手	0
FP 石川	0
計	17

審・細沢 内藤

得	〔浦和〕
0	GK 諸橋
0	GK 中野
6	FP 須藤
8	FP 大邑
2	FP 佐藤
2	FP 小山
3	FP 北川
0	FP 奥村
0	FP 雑賀
)	FP 紅林
0	FP 星野
0	FP 佐々木
21	計

決勝

浦和学院 14（6－7、8－6）13 熊本市商

〔戦評〕両者ともコートを大きく使ってのコンビネーションからロングシュート主体の攻撃である。熊本市商はサイド、ロングと多彩であるが、浦和のGK諸橋に阻まれ決め手を欠く。浦和はロングシュートが少々単発気味で、佐藤を使ったスカイプレーも惜しくも決まらない。前半は全く互角である。

後半開始早々、熊本市商は3連続得点し4点リードしたが、浦和も2人にマンツーマンにつくディフェンスで熊本の攻撃を押え追いすがる。両者ともGKがよく押え、緊張したしまったゲーム展開が続く。浦和は終了4分前にペナルティーで同点で追いつく。10秒前、熊本・森山のシュートがラインクロス、速攻、浦和・紅林が決勝点をあげた。

両者ともに決勝戦にふさわしい最高のゲームであった。

〔熊本〕	得
GK 中村	0
GK 富永	0
FP 森川	0
FP 新井	0
FP 森川	0
FP 村上	0
FP 米満	1
FP 原田	3
FP 永田	0
FP 森山	5
FP 池田	3
FP 北原	1
計	13

審・細沢 内藤

得	〔浦和〕
0	GK 諸橋
0	GK 中野
6	FP 須藤
3	FP 大邑
0	FP 佐藤
2	FP 小山
1	FP 北川
0	FP 奥村
0	FP 雑賀
2	FP 紅林
0	FP 星野
0	FP 佐々木
14	計

女子

1回戦

山陽女（広島）19（13－5、6－9）14 江東商（東京）

〔戦評〕立ち上がりはやはり固さが見られ、双方ともパスミスが見られリズムがつかめず苦戦した。そんな中、山陽女が速攻と速いセットプレーで得点を重ねた。江東商・水落のロングと藤井のポストプレーで追い上げるが、13－5と山陽女が前半をリードした。後半は、前半とは違って速攻、セットプレーとGK古山の好守で江東商が押し気味にゲームを進めたが、前半のリードを守った山陽女が逃げ切った。

〔江東〕	得
GK 古山	0
GK 芹川	0
FP 水落	6
FP 前原	1
FP 早坂	1
FP 藤井	1
FP 宮崎	3
FP 佐久間	0
FP 滝沢	0
FP 佐藤	0
FP 関	1
FP 斉藤	1
計	14

審・光安 徳前

得	〔山陽女〕
0	GK 山城
0	GK 永井
7	FP 青戸
2	FP 岩槻
1	FP 琴谷
6	FP 久光
0	FP 河本
1	FP 松田
0	FP 石神
2	FP 生川
0	FP 下川
0	FP 山下
0	FP 山本
19	計

小松市女（石川）24（8－8、16－8）14 大分東（大分）

〔戦評〕前半、両チームともに緊張が見られ得点につながらなかったが、3分30秒、大分東・御手洗のカットイ[illegible]により先取点となった。その後、大分東GK前川のキーピングもあり、速攻で4－1とする。一方、小松市女は山下、牧らのロング、ステップシュートが得点につながり8－8で前半を終る。後半、大分東はミスが続き小松市女の速攻となった。また、小松市女のダブルポストプレーも決まり始め、牧のフェイントも切れた。大分東は後藤らのシュートで小松市女を追うが、24－14で小松市女が大分東をふり切った。

〔大分東〕	得
GK 前川	0
FP 浜野	0
FP 角野	0
FP 後藤	4
FP 小野	3
FP 植木	2
FP 三浦	3
FP 三輪	2
FP 衛藤	0
FP 楠本	0
計	14

審・村松 小山

得	〔小松〕
0	GK 大廻
0	GK 夷
3	FP 森澤
8	FP 牧
0	FP 中尾
5	FP 山下
4	FP 南
0	FP 木下
3	FP 滝川
1	FP 東
0	FP 中野
0	FP 中野
24	計

栃木商（栃木）25（11－3、14－8）11 清水市商（静岡）

〔戦評〕立ち上がり早々、栃木商が多彩な攻撃で4連続得点を奪った。一方、清水商は動きが堅く、ミスが目立ち今一歩リズムがつかめなかったが次第に波に乗り、ロングシュートとポスト攻撃で得点を重ねた。しかし、攻撃力、スピードに勝る栃木商が11－3で前半をリードした。後半に入っても栃

木商は高瀬を中心によく走り、最後までスピードが落ちずロング、ポストシュートなどで得点し、25－11で勝利を手にした。

得	〔栃木商〕		〔清水商〕	得
0	篠崎	GK	松尾	0
0	青木		塩川	0
5	小林	FP	西木	2
2	岡本		石橋	6
0	須長	〔審・工藤 今井田〕	松井	0
4	安本		渡辺	2
9	高瀬		望月	1
3	小栗		芦沢	0
0	入江		土屋	0
2	石川		青木	0
0	石橋		小沢	0
0	福田		横須賀	0
25				11

群女短附（群馬） 26 〔14－4 12－4〕 8 札幌月寒（北海道）

〔戦評〕セットプレーを中心とする札幌月寒と速攻を中心とするスピードあふれる群馬女子短大附という対象的なチームカラーをもつチームの対決となった。月寒は、緊張感からくる固さか、パスミス、シュートミスが多く、前半はなかなか得点することができなかった。それに対し、群女短附はGK西野を中心とする堅守、相手ミスに乗じての速攻を中心に得点を加えた。後半に入っても個人技に勝る群女短附の動きは衰えず、石川のロングシュートを中心に着実に得点を加え、勝利を収めた。

得	〔群女附〕		〔月寒〕	得
0	川島	GK	長内	0
0	西野		大滝	0
6	神谷	FP	野村	0
0	関		松宮	0
3	横田	〔審・不明〕	佐藤	5
0	佐俣		鬼柳	0
0	黛		上木	1
4	寺田		山下	1
1	河埜		宮川	0
7	石川		梅坪	0
0	岡野		佐藤	1
5	肥留川			
26				8

コザ（沖縄） 26 〔12－16 14－7〕 23 高松商（香川）

〔戦評〕前半、高松商が十河のポスト攻撃を中心に得点するのに対し、コザは池原のカットイン、フリースローなどで一進一退の攻防を続けるが、残り15分から高松商がカットイン、速攻、PTと連続得点をあげてリードを広げ、4点差で折り返した。後半に入り足が止まった高松商に対し、ペースを取り戻したコザはカットイン、PTと確実に加点し、残り7分で同点。その後も波に乗ったコザが連続得点し試合を決めた。

得	〔コザ〕		〔高松商〕	得
0	伊佐	GK	佐藤	0
0	前島		宮本	0
0	島袋	FP	山下	4
3	田場		久保	4
2	玉城	〔審・工藤 今井田〕	平井	0
0	久高		溝渕	5
11	池原		安岐	0
2	川上		十河	4
2	桑江		一村	0
0	真喜志		壺井	6
1	比嘉		前田	0
5	當山		稲田	0
26				23

水海道二（茨城） 11 〔5－2 6－5〕 7 洛北（京都）

〔戦評〕前半立ち上がり、水海道二が2点を奪いリード、洛北もポストによるうまい前ブロックから石谷、橋本に合わせるが、シュートがゴールのワクの中に入らず、14分間ノーゴール。14分過ぎに石谷のシュートが決まり初得点。スピードの水海道、ロングの洛北、そんな展開で前半を5－2で終了。後半すぐに洛北が得点をするが、中盤に入り水海道・鶴村の3連続得点で洛北の粘りをあきらめに変えさせた。残り2分で洛北も点を返し頑張るが及ばなかった。

得	〔水海道〕		〔洛北〕	得
0	軽部	GK	北山	0
0	益子		薮原	0
3	伊丹	FP	三上	1
0	風見		平井	0
1	富山	〔審・勝本 源野〕	辻	4
2	野口		西脇	0
4	鶴村		石谷	2
0	滝本		松田	0
0	宇佐見		橋本	0
0	山崎		田中	0
0	石橋		木村	0
1	結東		岸本	0
11				7

盛岡第二（岩手） 15 〔10－8 5－6〕 14 東海女（愛知）

〔戦評〕双方とも固さが残り、静かな試合開始であった。2－2の同点で迎えた8分より盛岡二の固さがとれ、対馬から古川のスカイプレーを口火に対馬、千葉、酒井、板谷と連続5ポイントを取り返し同点とする。その後も盛岡二が得点を取り東海女が追いつく展開の好ゲームとなった。相手ゴールスローからマンツーマンをひく東海女のディフェンスに攻めあぐんだ盛岡二だったが、古川のロングの決定率がわずかに東海女に勝り、1点差で逃げ切った。

得	〔盛岡〕		〔東海女〕	得
0	杉田	GK	多田	0
0	千葉		石井	0
0	米山	FP	宮崎	1
0	赤澤		内山	2
1	菊池	〔審・伊藤 尾崎〕	水野	0
2	板谷		白神	0
6	古川		加藤	0
2	千葉		山下	7
3	酒井		天野	4
0	小泉		尾崎	0
0	松村			
1	対馬			
15				14

熊本女商（熊本） 16 〔8－2 8－3〕 5 暁（三重）

〔戦評〕前半、両チームともにスピードある攻撃を展開する。しかし、ディフェンスで両チーム頑張り、なかなか得点を許さない。一進一退の攻防が続いたが、10分過ぎあたりから熊本女商が抜け出し速攻などで差を広げる。一方暁は大事なところでミスが目立ち本来のプレーができない。結局、前半は熊本女商が8－2とリードして終了。後半が始まり、前半同様熊本女商のペースでゲームは進む。暁は松田のロングを主体に攻撃を展開するが、ミスが多く、シュー

得	〔熊本女〕		〔暁〕	得
1	橘	GK	栗栖	1
0	植村		小川	0
6	村上	FP	松田	2
2	入江		喜楽	0
1	竹内	〔審・細沢 内藤〕	橋瓜	1
0	長嶺		笠井	0
4	松村		橋本	0
0	東		笠原	0
2	鍬本		野崎	1
0	立川		梅山	0
0	宮村		金山	0
0	田村		光本	0
16				5

トチャンスがなかなか生まれない。そして、ディフェンスでも動きが鈍くなり、再三相手にPTを許してしまう。終ってみれば、16－5の大差で熊本女商が勝利を収めた。

昭和学院（千葉）30〔15－6／15－6〕**12 大曲農（秋田）**

〔戦評〕平均身長では大曲農が上回るが昭和は機動力で勝負。開始早々、昭和は足をいかして4連続得点。大曲農は前半6分過ぎに初得点、6－1となる。大曲の長身選手高橋（180cm）はディフェンス専門、福田（171cm）はシュート力にやや弱さが見られるのが惜しい。全体的に、パワーのある星を中心に全員が足をいかした昭和が大曲農を圧倒した。

	〔大曲農〕	得
GK	高橋	0
	富士野	0
FP	佐野	7
	福田	2
	高橋	1
	藤田	2
	鈴木	0
	加藤	0
	高橋	0
	熊谷	0
	柿崎	0
	斉藤	0
		12

審〔神谷・薮内〕

	〔昭和〕	得
GK	佐藤	0
	岡本	0
FP	嶋本	5
	袴田	0
	太子	1
	星	8
	小谷	5
	細井	5
	梅沢	0
	澤野	0
	阿部	1
	増田	5
		30

名短附（愛知）23〔9－2／14－6〕**8 彦根商（滋賀）**

〔戦評〕立ち上がりお互い緊張しており、ミスが多かったが、徐々に名短附がペースをつかみリードしていった。名短附のオフェンスにやや彦根商が守れず退場者も続出した。後半も彦根商は名短附のディフェンスを破れず、名短附の多彩な攻撃（ロングシュート、カットイン、ポストプレー、速攻）が冴え、前回優勝校の貫録を示した。

	〔彦根商〕	得
GK	片山	0
	前川	0
FP	小菅	2
	辻	3
	福川	1
	浅井	1
	木村	1
	川崎	0
	荻野	0
	月成	0
	小堀	0
	村岸	0
		8

審〔小林・土屋〕

	〔名短〕	得
GK	庵下	0
	洞口	0
FP	梶田	9
	山川	3
	中村	0
	安田	2
	黒木	0
	兒丸	0
	児島	0
	日下部	3
	山本	1
	松下	5
		23

福井商（福井）13〔8－4／5－7〕**11 今治北（愛媛）**

〔戦評〕立ち上がりの10分間は両チームとも緊張のためかミスが続出し、得点も2－2のまま小康状態が続いた。中盤過ぎからリズムが良くなってきた福井商が徐々に得点を重ねていったのに対し、今治北は相手ディフェンスを崩せず前半が終了。後半の中盤以降、福井商のミスが出て相手の速攻などで点差を縮められ、その後も今治北のロングが決まり残り5分過ぎに1点差までつめ寄られた。しかし、最後にPTで2点差とし福井商が逃げ切った。

	〔今治北〕	得
GK	島田	0
	白石	0
FP	村上	2
	南條	1
	大仲	4
	菅	4
	清水	0
	越智	0
	高橋	0
	阿部	0
	近藤	0
	吉村	0
		11

審〔中井・坪野〕

	〔福井商〕	得
GK	沖園	0
	大村	0
FP	宇野	1
	江川	0
	宮本	7
	池本	0
	森	2
	山崎	2
	中野	0
	藤田	0
	小西	1
	花立	0
		13

川崎北（神奈川）22〔8－5／14－4〕**9 添上（奈良）**

〔戦評〕前半立ち上がりは両チームとも固さが見られなかなか得点をあげることができなかったが、ディフェンス、オフェンスともに勝る川崎北が一歩リードして前半は終了。後半に入っても添上は川崎北の堅いディフェンスを破ることはできずに川崎北の一方的な試合となった。添上がスピーディな速攻を生かすことができなかったことが惜しまれる。

	〔添上〕	得
GK	松井	0
FP	河野	3
	厚地	1
	西本	3
	中尾	2
	坂本	0
	阿部	0
	杉本	0
	奥田	0
		9

審〔浅野・神谷〕

	〔川崎北〕	得
GK	池端	0
	河原	0
FP	武田	4
	松島	5
	小圷	2
	若林	1
	佐々木	1
	小林	8
	関川	0
	飯田	1
	森	0
	亀ヶ谷	0
		22

岩国商（山口）36〔16－1／20－2〕**3 釧路湖陵（北海道）**

〔戦評〕試合開始4分過ぎまで両チームとも固さのためかミスが目立つ立ち上がりだった。その後、岩国商の速攻が爆発し、一方的な試合展開となった。釧路は岩国の高いディフェンスに阻まれ、なかなか得点できず16－1と岩国の大量リードで前半を終了した。後半に入っても岩国の勢いは止まらず速攻を中心に得点を重ね36－3と圧倒的な差をつけて勝利を収めた。

	〔釧路〕	得
GK	梶沢	0
	渡部	0
FP	藤田	0
	小成	0
	田中	1
	永塚	0
	中川	1
	佐藤	0
	米川	0
	浜谷	1
	今井	0
	吉村	0
		3

審〔板倉・岩本〕

	〔岩国商〕	得
GK	河本	0
	末岡	0
FP	中村	6
	太田黒	5
	小林	1
	田中	4
	西岡	2
	佃	7
	恩田	6
	末森	2
	松原	2
	石田	1
		36

北村山（山形）14〔7－6／7－6〕**12 九州女（福岡）**

〔戦評〕前半の攻防は両者一進一退で、速攻でやや北村山が早く、セットでは九州女が野口の1対1、ミドルを中心に出足リードするが、その後北村山もセットで阿部のくずしなどで追い上げ、北村山が7－6と1点リードして前半を折り返す。接戦ということで後半の出足が注目されたが、北村山が前半同様、阿部のくずしから動きの良いポスト石井とのコンビからの得点などで一時は4点差まで離し、北村山のペースで進む。逆に九州女はプレーにリズムがなく、単調な攻めでディフェンスにも元気がない。ダブルポストにしたり、フリースローからの攻めを工夫し、速攻などで1点差まで追い上げるが、ストーリングなどで流れをつ

かめず、北村山・芳賀が1対1から連取し、結局14－12で北村山がふり切って勝利を収めた。

	〔九州女〕	得
GK	門田	0
GK	西川	0
FP	野口	6
FP	安川	3
FP	上村	1
FP	峰尾	1
FP	平岡	0
FP	西津	1
FP	黒髪	0
FP	松隈	0
FP	牛島	0
FP	占部	0
		12

〔審・浅野 神谷〕

	得	〔北村山〕
GK	0	柴田
GK	0	遠藤
FP	5	石井
FP	0	星川
FP	0	渡辺
FP	1	高橋
FP	4	阿部
FP	0	元木
FP	1	細谷
FP	1	川越
FP	0	高橋
FP	2	芳賀
	14	

2回戦

四天王寺（大阪）23 〔13－3 10－5〕 **8 山陽女**

〔戦評〕前半開始から浮き足だちミスの目立つ山陽女に対し、堅い守りからの速攻でペースをつかんだ四天王寺は着実に加点し、10点をリードして前半を終る。後半に入っても個々の1対1で上回る四天王寺が着実にリードを広げ、山陽女につけいるスキを与えなかった。

	〔山陽女〕	得
GK	山城	0
GK	永井	0
FP	青戸	3
FP	岩槻	1
FP	久光	2
FP	琴谷	0
FP	河本	0
FP	松田	0
FP	石神	0
FP	生川	2
FP	下川	0
FP	山下	0
		8

〔審・細沢 内藤〕

	得	〔四天王〕
GK	0	富山
GK	0	松本
FP	0	上原
FP	2	木村
FP	4	田中
FP	0	辻
FP	2	中嶋
FP	0	中井
FP	5	中山
FP	4	吉川
FP	4	若林
FP	2	安部
	23	

栃木商 20 〔10－8 10－7〕 **15 小松市女**

〔戦評〕小松市女がスローオフ後山下のロングシュートで得点すれば栃木商は小林のポストシュートで入れ返すというシーソーゲームが前半続いた。前半の2点差は栃木商のディフェンスが小松市女にコンビプレーをさせなかったものと大切なときに2回の退場が響いている。後半に入っても、攻守に足を止めず栃木商は自分たちのペースで進める。攻撃も全員が各ポジションが自信をもちシュートする栃木商に対し、45度、牧、山下の得点を封じられ、他の者の足も止められて、最後は小松市女は自分たちのペースがまるでなかった。

	〔小松女〕	得
GK	大廻	0
GK	夷	0
FP	森澤	2
FP	牧	9
FP	中尾	0
FP	山下	4
FP	南	0
FP	滝川	0
FP	宮本	0
FP	中野	0
FP	中野	0
FP	木下	0
		15

〔審・中野 坪井〕

	得	〔栃木商〕
GK	0	篠崎
GK	0	青木
FP	6	小林
FP	4	岡本
FP	0	須長
FP	2	安本
FP	6	高瀬
FP	1	小栗
FP	1	入江
FP	0	石川
FP	0	石橋
FP	0	福田
	20	

コ　ザ 22 〔12－6 10－9〕 **15 群女短附**

〔戦評〕試合開始より両チームともにスピードを生かした展開となった。先取点をあげたコザが持ち味のスピードプレーを生かして試合をリードする。群女短附も必死の追い上げを図るが、GK伊佐を中心とするコザの好守に阻まれ思うように得点できない。結局、前半有利に展開したコザが12－6とリードして前半を折り返した。後半に入っても堅いディフェンスから速攻へくり出すコザのペースで試合は展開する。一方の群女短附は、ミドルシュートをコザGK伊佐の好守に止められ、なかなか得点差は縮まらない。終盤、群女短附は相手ミスから連取して流れをつかもうとするが、攻守ともにミスが多く、前半の6点差が大きくのしかかる形となった。

	〔群女附〕	得
GK	川島	0
GK	西野	0
FP	神谷	1
FP	関	0
FP	横田	2
FP	佐俣	0
FP	黛	0
FP	寺田	4
FP	河埜	3
FP	石川	4
FP	岡野	0
FP	肥留川	1
		15

〔審・石原口 渡辺〕

	得	〔コザ〕
GK	0	伊藤
GK	0	前島
FP	1	田場
FP	1	比嘉
FP	1	玉城
FP	1	久高
FP	6	池原
FP	7	川上
FP	3	桑江
FP	0	比嘉
FP	0	當山
FP	2	立津
	22	

水海道二 19 〔10－7 9－4〕 **11 盛岡第二**

〔戦評〕前半10分まで一進一退の攻防が続いており点の取り合いであった。その後、お互いディフェンスが相手チームのオフェンスに慣れ、点があまり動かなくなったが、水海道が伊丹のロングシュートを中心にじりじりと点を離し、10－7で前半を終えた。後半、盛岡はやや単調な攻撃でロングシュートを放つが決まらず、逆に水海道は確実な守りから速攻で点をとり、セットでは伊丹を中心に確実に得点を重ね勝利を収めた。

	〔盛岡二〕	得
GK	杉田	0
GK	千葉	0
FP	米山	0
FP	赤澤	0
FP	菊池	1
FP	板谷	2
FP	古川	4
FP	千葉	2
FP	酒井	0
FP	小泉	0
FP	松村	0
FP	対島	2
		11

〔審・浅野 神谷〕

	得	〔水海道〕
GK	0	軽部
GK	0	益子
FP	5	伊丹
FP	0	大村
FP	2	風見
FP	1	富山
FP	4	野口
FP	6	鶴村
FP	0	滝本
FP	1	宇佐見
FP	0	山崎
FP	0	石橋
	19	

昭和学院 24 〔14－4 10－12〕 **16 熊本女商**

〔戦評〕スピードに勝る昭和学院が多彩な攻撃で着々と得点を重ねる。熊本女商は昭和のディフェンスラインを破れず苦しい展開となり、散発的なロングシュートでしか得点できない。前半は昭和の一方的なゲームで終る。後半に入ると、熊本は昭和の嶋本にマンツーマン、さらには星にもマンツーマンディフェンスという思い切った戦法をとるが、互角の戦いに持ち

	〔福井商〕	得
GK	沖園	0
GK	大村	0
FP	宇野	0
FP	江川	0
FP	宮本	8
FP	池本	0
FP	森	4
FP	山崎	2
FP	田中	0
FP	藤田	1
FP	小西	2
FP	田中	0
		17

〔審・神谷 薮内〕

	得	〔名短〕
GK	0	庵下
GK	0	洞口
FP	5	梶田
FP	3	山川
FP	2	中村
FP	9	安田
FP	1	黒木
FP	2	兒丸
FP	4	児島
FP	1	日下部
FP	4	山本
FP	0	松下
	31	

込むのがやっとで、前半の大量リードに支えられ、あわてることのなかった昭和が勝利を手にした。

〔昭和〕	得	〔熊本〕	得
GK 佐藤	0	GK 橘	0
GK 岡本	0	GK 植村	0
FP 嶋本	5	FP 村上	1
袴田	1	入江	1
太子	0	竹内	7
星	6	長嶺	2
小谷	5	松村	5
服部	0	東	0
細井	2	鍬本	0
梅沢	0	立川	0
阿部	0	宮村	0
増田	5	田村	0
	24		16

〔審・小林・土屋〕

名短附 31 (12—8, 19—9) **17 福井商**

〔戦評〕名短附が開始早々の山本のサイドシュートをはじめ、福井商が名短附の好守などで得点をあげられない7分間で4点リード。一方福井商も高く積極的な守りにより、それ以後は名短附の攻めのリズムをくずし宮本の2本のロング、速攻などで挽回。しかし、12分過ぎの福井商の連続退場により名短附が落ち着きを取り戻し、名短附が前半を4点リード。後半開始3分間は、宮本、山崎のロングで福井商も粘っていたが、3分過ぎの名短附の3点連取で徐々に集中力がなくなり、名短附の一方的な試合となった。

〔名短附〕	得	〔福井商〕	得

川崎北 16 (9—2, 7—6) **8 岩国商**

〔戦評〕立ち上がり、機動力に勝る川崎北が中央付近のカットインプレー、ポストプレー、ロングシュートで連続得点、前半10分経過時点で5—0と川崎北がリード。岩国商は前半11分、ロングシュートのこぼれ球をポストが拾い初得点、波に乗るかと思わせたが、川崎北の堅いディフェンスに阻まれ前半9—2で終了。後半、岩国商は6—7と互角の健闘は見せたが前半の点差は大きく、16—8で川崎北が勝ち進んだ。

〔川崎北〕	得	〔岩国商〕	得
GK 池端	0	GK 河本	0
GK 河原	0	GK 末岡	0
FP 武田	4	FP 中村	1
松島	0	太田黒	1
小圷	4	小林	1
若林	1	田中	1
佐々木	0	西岡	0
小森	4	佃	2
関川	0	恩田	0
飯田	3	末森	2
森	0	松原	0
亀ヶ谷	0	石田	0
	16		8

〔審・松原・榊原〕

夙川学院(兵庫) 20 (7—5, 13—5) **10 北村山**

〔戦評〕前半、両チームとも堅いディフェンスに攻めきれず、5分過ぎ相手のミスから速攻で北村山が先制。その後、立て続けにカットインが決まり4—0となる。しかし、夙川も6分、ポストプレーで1点を取ったのをきっかけにディフェンスがリズムを取り戻し、ストーリングなど相手のミスを誘い速攻へとつなげ、市岡の3連続ポイントなどで逆転、前半を7—5で終る。後半も北村山は流れを変えることができず、高橋のサイドシュートによる得点のみに終る。

〔夙川〕	得	〔北村山〕	得
GK 中井	0	GK 柴田	0
GK 西川	0	GK 遠藤	0
FP 松本	0	FP 石井	1
大井	5	星川	0
小山	0	渡辺	0
中尾	2	高橋	4
小畑	2	阿部	1
小杉	5	元木	0
川端	1	細谷	2
市岡	5	川越	1
田村	0	高橋	0
益田	0	芳賀	1
	20		10

〔審・板倉・岩本〕

3回戦

四天王寺 18 (8—8, 10—5) **13 栃木商**

〔戦評〕立ち上がり、栃木商はロング、パスカットからの速攻と連取するが、四天王寺も若林、田中の活躍で一進一退の攻防が続く。両チームともGKを中心とした堅い守りで連続得点を許さず、緊迫した試合内容で前半を8—8の同点で終える。後半、地力で勝る四天王寺が若林の大車輪の活躍で勝利を収めたが、栃木商GK篠崎の好守、スピード豊かな攻撃などの健闘を称えたい。

〔四天王〕	得	〔栃木商〕	得
GK 富山	0	GK 篠崎	0
GK 松木	0	GK 青木	0
FP 上原	0	FP 小林	2
木村	0	岡本	2
田中	5	須長	0
辻	1	安本	3
辻川	0	高瀬	2
中嶋	0	小栗	3
中山	2	入江	1
吉川	2	石川	0
若林	8	石橋	0
安部	0	福田	0
	18		13

〔審・光安・徳前〕

水海道二 20 (9—5, 11—12) **17 コザ**

〔戦評〕水海道はディフェンスからの速攻を中心に多彩な攻撃を見せる。コザのディフェンスが少々甘いのでペナルティーになり着実に得点を重ねる。一方コザは、スピードのあるボール回しから両45度のロングシュートにいくが、単発気味になりなかなか決まらない。前半は水海道のペースであった。後半、コザはステップまたはミドルシュートに変え、池原がよく決め応戦した。しかし、水海道も着実に得点を重ねてなかなか点差が変わらない。終了間際に水海道から退場者が出てチャンスができたがすでに遅かった。

〔水海道〕	得	〔コザ〕	得
GK 軽部	0	GK 伊佐	0
GK 益子	0	GK 前島	0
FP 伊丹	2	FP 島袋	0
風見	0	田場	0
冨山	1	玉城	0
野口	3	久高	0
鶴村	7	池原	9
滝本	5	川上	3
山崎	0	桑江	0
石崎	0	真喜志	0
結束	2	比喜	0
平田	0	當山	5
	20		17

〔審・村松・小山〕

昭和学院 23 (9—11, 14—10) **21 名短附**

〔戦評〕試合開始早々、1分と2分に昭和に警告が与えられ、名短附は速いボール回しから梶田のミドルシュート、安田のポストシュートなどで10分過ぎまで6—1とリードした。しかし、昭和は10分

過ぎより積極的に出るディフェンスで速いボール回しを阻止、細井、星の速攻、カットインなどで着々と得点し、22分に小谷のPTで8—8の同点に追いついた。その後、名短附も中村のサイドシュートなどでリードし11—9で前半を終えた。後半に入り、昭和のディフェンスに名短附はなかなか得点できず7分過ぎ15—14とこの試合初めて昭和がリードした。その後一進一退の攻防が続いたが、昭和は星、細井らの得点で17分過ぎからの2点のリードを守り、23—21で名短附を破った。

	〔名短〕	得	〔昭和〕	得
GK	庵下	0	佐藤	0
GK	洞口	0	岡本	0
FP	梶田	12	嶋本	4
FP	山川	2	袴田	0
FP	中村	2	太子	0
FP	安田	2	星	6
FP	黒木	0	小谷	3
FP	皃丸	0	辻	0
FP	児島	1	細井	6
FP	日下部	0	梅沢	0
FP	山本	2	阿部	1
FP	松下	0	増田	3
		21		23

〔審・佐谷・村尾〕



夙川学院 17 〔8—6 9—8〕 14 川崎北

〔戦評〕前半、川崎北は手渡しプレーを多用し攻めようとするが、夙川の早く堅いディフェンスにあいなかなかシュートまで結びつかなかった。一方夙川は、多彩な攻撃をするがシュートチャンスでのクロス、オーバーなどで得点があげられず8—6と2点のリードで前半を終る。後半は、川崎北は武田のロングシュートを軸に、夙川は大井を中心にするもサイド、速攻などで攻防を展開した。しかし、攻撃に幅のある夙川が後半もリードし17—14で粘る川崎北を下した。

	〔川崎北〕	得	〔夙川〕	得
GK	池端	0	中井	0
GK	河原	0	西川	0
FP	武田	11	松本	0
FP	松島	2	大井	7
FP	小坪	1	小山	0
FP	若林	0	中尾	3
FP	佐々木	0	小畑	0
FP	小森	0	小杉	4
FP	関川	0	川端	2
FP	飯田	0	市岡	1
FP	森	0	田村	0
FP	亀ヶ谷	0	益田	0
		14		17

〔審・楓・渡辺〕

準決勝

四天王寺 19 〔9—3 10—7〕 10 水海道二

〔戦評〕地力に勝る四天王寺が中山、若林を軸にスピードに乗った攻撃で次々と加点し点差を広げていった。水海道二はよく攻めたが最後のつめを欠き、6分過ぎから追加点を阻まれ、3—9とリードを許し前半を終了した。後半、水海道二は粘り強い攻撃でPTを再三ものにし、一時は4点差までつめ寄ったが、四天王寺のスピードに負け、再び点差を広げられゲームを終了した。

	〔水海道〕	得	〔四天王〕	得
GK	軽部	0	富山	0
GK	益子	0	松本	0
FP	伊丹	0	上原	2
FP	風見	1	吉川	1
FP	富山	1	若林	3
FP	野口	7	安部	2
FP	鶴村	1	木村	1
FP	滝本	0	田中	4
FP	山崎	0	辻	2
FP	石橋	0	辻川	0
FP	結束	0	中嶋	0
FP	平田	0	中山	5
		10		19

〔審・光安・徳前〕

夙川学院 19 〔9—5 10—11〕 16 昭和学院

〔戦評〕両チームとも速いつめのディフェンスとカットインから攻撃で一進一退でゲームが進んだ。昭和は星の強引なカットインからくずそうとするが、夙川の厚いディフェンスをくずせない。夙川は前半10分、中尾の速攻でペースをつかみ4点リードで前半を終った。後半、昭和はディフェンスラインを上げマンツーマンでペースをくずしに出た。夙川の攻撃の流れを止められ1点差につめられた。しかし大井のロングシュートが決まり流れが夙川に傾き3点差で逃げ切った。

	〔昭和〕	得	〔夙川〕	得
GK	佐藤	0	中井	0
GK	岡本	0	西川	0
FP	嶋本	6	松本	0
FP	袴田	0	大井	4
FP	太子	0	小山	0
FP	星	2	中尾	4
FP	小谷	4	小畑	3
FP	辻	0	小杉	2
FP	細井	1	川端	4
FP	梅沢	0	市岡	2
FP	阿部	2	田村	0
FP	増田	1	益田	0
		16		19

〔審・小林・土屋〕

決勝

四天王寺 13 〔7—7 6—5〕 12 夙川学院

〔戦評〕近畿地区予選の再現となった決勝戦、予選では9—6と夙川が勝ったが、本大会では両チームとも安定した勝ち方で順調に決勝まで駒を進めた。

両チームとも緊張からか固い動きでの立ち上がりであったが、5分経過頃からからだもほぐれ、随所に好プレーが出始めた。夙川のポスト、カットイン、ロングの攻撃に対し、四天王寺は持ち味の足を生かしての速攻、ロングなどで対抗し、一進一退の攻防が続く。前半を7—7の同点で折り返す。

後半に入り、四天王寺は速攻、PTと加点しリズムに乗りかかるが、両チームともやや荒いディフェンスから退場者を出し、ともにペースをつかめない。残り10分、四天王寺は夙川のミスに乗じて得点、3点差をつける。夙川も追い上げたが一歩及ばなかった。

	〔夙川〕	得	〔四天寺〕	得
GK	中井	0	富山	0
GK	西川	0	松本	0
FP	松本	0	上原	0
FP	大井	7	木村	1
FP	小山	0	田中	0
FP	中尾	0	辻	3
FP	小畑	2	中嶋	0
FP	小杉	0	中山	5
FP	川端	1	平石	0
FP	市岡	2	吉川	0
FP	田村	0	若林	4
FP	益田	0	安部	0
		12		13

〔審・小林・土屋〕

平成3年度
公認コーチ・シンポジューム報告

指導・方法委員会

平成3年度公認コーチ・シンポジュームが開催されましたので、その概要について報告致します。

1．公認コーチ・シンポジューム開催の目的

日本体育協会公認指導者として登録している競技力向上A、B級およびC級コーチを対象に、技術・戦術の確立と効果的指導法の研究をすることにより指導者の資質指導力の向上をはかり、日本ハンドボール協会の指導者相互の情報交換と研究協議を通じて連帯感を深め、組織的活動を促進するために開催するものである。

2．主催

(財)日本ハンドボール協会

3．期日

平成4年3月14日（土）〜15日（日）

4．会場

国立オリンピック記念青少年総合センター、本館講義室

5．公認コーチ・シンポジューム内容

テーマ「技術・戦術体系の確立と効果的な指導方法の研究」

6．参加資格

公認コーチ資格取得者とした。なお各連盟、日本リーグにおいて推薦された者の参加も認めた。

7．経費

資料代を含み8000円とした。

8．宿泊

宿泊場所については、オリンピック記念青少年センターが工事、満室により宿泊不可能となっており、各自で手配していただいた。

日程表

	第1日：3月14日（土）		第2日：3月15日（日）
		9:30	ギリシャレフェリーシンポジューム報告「レフェリーと監督・コーチの協調について」大塚文雄審判部長
		10:30	指導者側から見たレフェリングについて　井藤・湧永製薬監督、粟屋・本田技研監督、福井・大阪経済大監督、田中・福岡大監督、山田・浦和実高監督
		11:00	アジア選手権レフェリング分析 ＶＴＲを用いたディスカッション 江成委員
12:00	集合・受付		
12:30	開講式 コーチャーズソサエティ総会 アジア選手権記録部門報告 小山委員 指導教本作成経過報告 岡本委員	12:30	昼食・休憩
13:00	基調講演 大西指導方法委員長	13:30	日本ハンドボールの方向 市原強化部長
13:30	世界のコーチングの動向 ギリシャトレーナーシンポジューム報告　平岡私員	14:00	アジア選手権の戦術 緒方女子全日本監督
14:20	アジア選手権技術分析 ＶＴＲを用いたディスカッション 個人技術　杉森委員	15:00	カンジェウォンの個人技術分析 杉森委員
	チーム戦術(JPN,KOR,CHN)平岡委員 チーム戦術(BRN,QUW,QAT)笹倉委員	16:00	閉講式
17:00	終了		

参加者名薄（日本体育協会名薄順）

市原　則之	湧永製薬	Ａ級コーチ
大西　武三	筑波大学	Ａ級コーチ
木野　実	湧永製薬	Ａ級コーチ
水上　一	筑波大学	Ａ級コーチ
浅野　鉦世	武蔵工業大学	Ｂ級コーチ
飯田　信行	中村荷役運輸	Ｂ級コーチ
伊藤　宏幸	日立製作所栃木工場	Ｂ級コーチ
大出　治男	栃木商業高校	Ｂ級コーチ
緒方　嗣夫	大和銀行	Ｂ級コーチ
梶岡　俊介	日本ビクター	Ｂ級コーチ
片瀬喜代治	静岡大学	Ｂ級コーチ
河村レイ子	筑波大学	Ｂ級コーチ
菅野　富夫	早稲田高校	Ｂ級コーチ
北岡　大覚	寝屋川高校	Ｂ級コーチ
儀間　次男	真和志高校	Ｂ級コーチ
斉藤　浩	青森商業高校	Ｂ級コーチ
笹倉　清則	日本女子体育大学	Ｂ級コーチ
清水　宣雄	国際武道大学	Ｂ級コーチ
末廣　芳文	都城西高校	Ｂ級コーチ
武内　貞夫	日本光電富岡	Ｂ級コーチ
田中　達男	新居浜工業高校	Ｂ級コーチ
田中　守	福岡大学	Ｂ級コーチ
豊島　慶男	秋田大学医療技術短期大学	Ｂ級コーチ
永井　忠和	倉敷天城高校	Ｂ級コーチ
平岡　秀雄	東海大学	Ｂ級コーチ
福井　孝明	大阪経済大学	Ｂ級コーチ
本田　娟一		Ｂ級コーチ
室川　正治	自衛隊体育大学	Ｂ級コーチ
山田　克彦	浦和実業高校	Ｂ級コーチ
山中善之祐		Ｂ級コーチ
池田　和男	関東学院高校	Ｃ級コーチ
江成　元伸	昭和薬科大学	Ｃ級コーチ
岡本　研二	茨城大学	Ｃ級コーチ

奥原　強之	自衛隊佐世保教育隊	Ｃ級コーチ
佐伯　紘一	東海大学福岡短期大学	Ｃ級コーチ
佐野　和夫	伸和工業	Ｃ級コーチ
芝　重春	自衛隊体育学校	Ｃ級コーチ
杉森　弘幸	筑波大学	Ｃ級コーチ
千野　恒夫	甲府第一高校	Ｃ級コーチ
西村　興八	神戸製綱所	Ｃ級コーチ
橋本　春二	帝京女積高校	Ｃ級コーチ
三輪　一義	筑波大学	Ｃ級コーチ
村松　誠	駒沢大学	Ｃ級コーチ
望月伸三郎	大阪薬科大学	Ｃ級コーチ
川田　雄三	栃木高校	上級コーチ
新里　泰一	コザ高校	コーチ
会田　宏	筑波大学	
浅野　幹也	中京大学	
粟屋　敏則	本田技研工業	
井藤　英忠	湧永製薬	
犬塚　秀幸	中京大学	
大塚　文雄	国立高校	
大熨　嘉彦	吉備高校	
小橋　阿紀	京都府立城山総合運動公園	
小山　浩	日本橋高校	
志賀　良弘	大和銀行	
島田　房二	富士高校	
清水口真澄	自衛隊体育学校	
滝本　明弘	金沢工業大学	
立木　浩二	本田技研工業	
田中　保彦	大同特殊鋼	
永松　義浩	ＪＵＫＩ	
花畑　平男		
田口　勝利	中村荷役運輸	
宮瀬　知周	熊本女子商業高校	

世界選手権(Bグループ)大会andヨーロッパ遠征試合報告

全日本男子監督・蒲生晴明

1. ご挨拶

昨年末に、皆様からご推薦をいただき、全日本男子チームの監督に就任いたしました。次回アトランタ・オリンピック出場、広島アジア大会優勝をターゲットに今後努力・精進する所存でありますと共に、その責任を感ずるところであります。まだまだ、勉強するところが多々ありますがハンドボールを愛する情熱は、人一倍持っているつもりです。今後とも皆様の暖かいご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

2. ヨーロッパ遠征について

昨年12月のセレクト合宿、そして日本リーグ真最中の第1回合宿（木田技研）、また、卒業試験や期末試験といった悪条件にもかかわらず、全員参加で実施できた第2回合宿（大同特殊鋼）、それぞれ選手のひたむきな努力と意欲、そして何と言っても所属チームの関係の方々の絶大なるご支援の賜物であると深く感謝いたすところです。

さて、西山団長をはじめ我々選手団は、3月5日に出発し、まずオランダにてナショナルチーム（世界選手権Bグループ出場）と3ゲーム、ベルギーへバスで移動して、ベルギーナショナルチーム（世界選手権Bグループ出場）と1ゲームを行い、ハンガリーに移ってからは、ハンガリー全国リーグのクラブチームと2ゲーム、ナショナルチーム（世界選手権Aグループ6位）と2ゲーム、合計12日間で8試合を行ってきました。世界選手権大会前の遠征ゲームとしては、非常にハードなスケジュールであったわけですが、選手全員の努力と意欲により、大きな成果が得ることができたと思います。新生ナショナルチームとして、大変に大きく貴重な経験となり、今後の意欲の源になったものと思っております。（試合結果は、別表参照）

3. 世界選手権（Bグループ）大会について

世界選手権（Bグループ）大会は、3月19日～3月29日までの11日間、オーストリアで開催され、参加16カ国により予選4ブロックに分かれて実施されました。

日本は、予選D組（日本・オーストリア・フィンランド・アメリカ）でウィーンから1時間ほどの町ストッケラウにて予選ラウンドを行いました。そして、オープニングゲームは、地元のオーストリアと対戦しましたが、4000人の大観衆の中、館内は異様な雰囲気と化し、今にも爆発しそうな大応援となりました。その応援振りは、観客全員が音楽に合わせ手拍子をし、声を合わせて歌を歌ったりするといったもので、日本でははまずありません。そして、ゲームがスタートしましたが、隣のポジションの選手に大声で連絡・指示を行っているにもかかわらず、普段どおりにはいかなく、歯車がうまく噛み合わなかったのは、事実でした。この体験したことのない雰囲気の中で、普段の力を望むのははっきり言って「酷」でありました。けれどもこの大応援の中で、「ハンドボールができる」と言うこと、これはスポーツマンとして、最高の舞台であり、誰もが夢を見ることでもあります。そして、これを経験できるのも今のナショナル選手でしかなく、そう言った意味で掛け替えのない貴重な体験であったと思っております。結果として、第1戦は大敗しましたが忘れることのできないゲームでした。

そうして、このオーストリアの大応援は止まるところなく、試合を追うごとに勢いを増し、ファイナルでは、10、000人の大応援と膨れ上がっていました。改めてヨーロッパのハンドボール熱を認識したところです。

一方日本チームに対しての観客の応援は非常に良く、オーストリアのゲームを除き、全試合を通じて日本びいきだったと感じており ております。これは、小さいながらスピードとテクニックの部分で「ヨーロッパにはないものが飛び出してくることを期待してのもの」とある関係者がいっていましたが、そのとおりスピーディーな展開からの速攻やセットオフェンスでは、その期待に応えるものがかなり出すことができたと思っております。このことは、今後の強化をしていくうえで「大きな宝物」であり、日本が世界で勝負する場合、スピードANDテクニックは充分通用するという裏付けにもなると考え

▼世界選手権大会成績

●3月19日	オーストリア	29	16－5	13－7	12	日本
●3月21日	日本	21	9－10	12－10	20	アメリカ
●3月22日	フィンランド	24	11－10	13－10	20	日本
●3月24日	スイス	28	16－7	12－12	19	日本
●3月25日	ブルガリア	20	10－11	10－6	17	日本
●3月27日	日本	24	12－15	12－9	24	中国
●3月29日	ポーランド	32	17－12	15－10	22	日本

〔順位〕①ノルウェー②オーストリア③アイスランド④スイス⑤デンマーク⑥フィンランド⑦イスラエル⑧中国⑨ブルガリア⑩オランダ⑪ポーランド⑫日本⑬エジプト⑭アメリカ⑮ベルギー⑯アルゼンチン

▼その他の試合結果

●3月6日	オランダ	25	16－7	9－7	14	日本
●3月7日	オランダ	30	15－13	15－9	22	日本
●3月8日	オランダ	31	17－5	14－8	13	日本
●3月12日	ベルギー	17	6－7	11－8	15	日本
●3月12日	TISZA VORAN	30	16－8	14－13	21	日本
●3月14日	日本	28	14－14	14－12	26	PEMU
●3月16日	ハンガリー	29	13－13	16－9	22	日本
●3月17日	ハンガリー	32	15－10	17－10	20	日本

ております。

大会の結果としては、予選リーグでアメリカに勝つことができ準決勝リーグへ進出、当面の宿敵の中国とは、引き分けとなりましたが、現在の状況下で中国と十分に勝負できたことは評価できるものであります。

そして、「最終順位としては、第12位となったこと」と、「27日間の遠征をとおして、尻上がりに調子を上げることができたこと」この2点については、選手たちの努力の結果であり、自身の身体を痛めながら戦ってくれた選手諸君に感謝するところです。

4．今後の強化について

現在のナショナルチームの強化は、今回の遠征のようなものと国内での二つの方法がありますが、活動日数として、年間100日（27%）足らずであります。その中で、全員が一同に集まって実施できるチャンスは大変に少なく永遠の課題となっております。しかしながら各所属チームでのご指導・ご教育のお陰をもちまして、今日まで強化継続してきました。今後はナショナルチームでのトレーニングと各所属チームでのトレーニングにおいて、ターゲットを絞り、それに向けての方策を地道に推進できれば目標は、必ず達成できるものと思いますし、世界に通用する選手が大勢出てくると確信しております。

是非とも、関係の皆様のご協力とご支援をいただき「素晴らしい日本を代表するナショナルチーム」にしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

終りになりましたが、今回の遠征に対しまして、大変にお世話になりました協会並びに各所属の関係の皆様に深く感謝いたします。

男子ナショナル世界選手権（B）大会派遣選手団

団長	西山逸成	1931．6.24	防衛大学
監督	蒲生晴明	1954．4．5	大同特殊鋼
コーチ	田口隆	1961．7.23	本田技研鈴鹿
ドクター	大林民典		自治医科大学

選手	氏名	生年月日	身長	体重	所属
G・K	橋本行弘	1965．9.17	185cm	80kg	本田技研鈴鹿
	林康一	1967．3．3	181	75	大同特殊鋼
	荒木進	1971．3.14	185	80	早稲田大学
C・P	甲斐章義	1966．4.22	183	71	大崎電気工業
	魚住和彦	1966.10.24	188	78	大崎電気工業
	福村正己	1967．2．8	184	74	本田技研鈴鹿
	梅基幸一	1967．2.26	182	72	本田技研鈴鹿
	末岡政広	1967．9．1	176	74	大同特殊鋼
	田中茂	1967．9．2	182	76	三陽商会
	河合哲	1968.11.10	171	67	香川教員
	土屋幸司	1969．5．3	178	78	大崎電気工業
	鎌塚和彦	1969．6．6	185	78	湧永製薬
	藤井孝志	1969．7.27	189	89	筑波大学
	佐藤壮一郎	1969．8．7	178	73	日本体育大学
	田中潤	1969.10．6	179	70	大阪体育大学
	後藤聡	1970．2.24	181	73	大阪体育大学
	岩本真典	1970．9.28	197	80	早稲田大学
	宇多村誠	1973．1．6	191	73	大同特殊鋼

遠征に参加した選手たちの感想文は次号に掲載いたします。

世界選手権を終えて

田口　隆

12月に選考され、2月に二度の合宿（延べ10日間）しかしていない選手と、新米コーチの私がいるチームで世界選手権に出発するに当っては、不安が相当ありました。不安とは次につながる戦いが出来るだろうかということで、変にコンプレックスを持つのではないだろうかと思っていました。しかし、世界選手権に入る前にオランダ、ベルギー、ハンガリーと対戦している選手たちを見ていて、そのような不安はなくなりました。全日本一年生が多いのでぎこちなさは付いて回るものの、伸び伸びとしたプレーにはホッとしました。

世界選手権に入ってからは、前哨戦を8戦行ったせいか、だんだんチームらしくなり、予選リーグでは、USAに競り勝ち、近年なかなか突破出来なかった準決勝リーグへと駒を進めることが出来、期待させたわけですが、準決勝リーグは競り合うものの、勝利を掴むことが出来ず、12位という結果にはなりましたが、今現在チームに何が足りないのか、また、私が選手を把握出来ていなかった部分も明確になり、今後の強化に多いに役立つことを思います。

今回の世界選手権での外国チームの印象としましては、ひたすらパワーが目につきました。今までは技ありパワーありというのが、強いチームというイメージであったのが、今回は違うように感じられました。また、中国が良いまとまりを見せ、ヨーロッパのチームと互角に戦ったのを目の当りにし、日本も韓国ばかり追ってはいられないと痛感しました。

日本チームは、チームの中心となる選手を育成することを、あとはパワーアップを図ることを最優先にしていきたいと思います。私たちの目標は3年後にはアジアの王者に返り咲き、アトランタ・オリンピックに出場することであり、チームの基礎の部分をじっくり鍛え、力を蓄え、目標に向けて頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の世界選手権大会、及びオランダ、ハンガリー遠征に際してはいろいろな方のご尽力に依り、遠征出来たことに感謝致します。

各地の大会結果

関東

埼玉県高校新人大会

（平成3年11月17日～26日、平成4年1月11日～15日／草加市スポーツ健康都市記念体育館）

〈男子〉

▼1回戦
庄和 26－12 北本
小松原 24－19 筑波大坂戸
春日部東 17－7 大宮
春日部 29－13 浦和工
大宮北 17－16 春日部共栄
越谷西 15－12 桶川
伊奈学園 20－4 三郷北
浦和市立 30－15 所沢緑ケ丘

▼2回戦
浦和学院 35－7 庄和
埼玉第一 21－5 秩父
三郷工 24－16 朝霞
小松原 18－16 浦和西
埼玉栄 24－17 春日部東
越谷南 13－7 鴻巣
城北埼玉 19－15 科学技術
川口北 26－9 春日部
浦和実 33－8 大宮北
川口工 20－19 城西川越
大宮南 23－16 西武台
春日部工 18－13 越谷西
川口青陵 24－14 伊奈学園
浦和南 23－12 大井
川口東 25－10 草加
農大三 19－8 浦和市立

▼3回戦
浦和学園 29－4 埼玉第一
小松原 19－12 三郷工
埼玉栄 15－12 越谷南
川口北 26－9 城北埼玉
浦和実 22－8 川口工
大宮南 20－9 春日部工
浦和実 20－17 川口青陵
農大三 27－16 川口東

▼準決勝リーグ1組
浦和学院 29－8 小松原
浦和学院 30－7 埼玉栄
浦和学院 20－8 川口北
川口北 18－7 埼玉栄
川口北 17－5 小松原
埼玉栄 18－13 小松原
〔順位〕①浦和学院②川口北③埼玉栄④小松原

▼準決勝リーグ2組
浦和実 26－10 大宮南
浦和実 26－12 浦和南
浦和実 21－12 農大三
農大三 20－9 浦和南
農大三 16－14 大宮南
浦和南 12－10 大宮南
〔順位〕①浦和実②農大三③浦和南④大宮南

▼7・8位決定戦
大宮南 22－18 小松原

▼5・6位決定戦
埼玉栄 16－8 浦和南

▼3位決定戦
川口北 16－12 農大三

▼決勝
浦和学院 20（11－7、9－9）16 浦和実

〈女子〉

▼1回戦
川口女 22－12 三郷北
浦和南 34－6 幸手商
大宮南 17－10 草加
所沢北 14－2 上尾南
庄和 23－19 浦和実
大宮北 18－10 八潮南
春日部女 18－11 狭山
浦和市立 11－10 秋草学園

▼2回戦
浦和実 23－8 川口女
行田女 20－10 筑波大坂戸
西武台 14－12 上尾東
浦和南 19－13 羽生第一
小松原女 27－7 大宮南
熊谷女 21－6 春日部工
浦和学院 26－11 草加南
伊奈学園 21－6 所沢北
埼玉栄 46－4 庄和
朝霞 22－17 越谷南
草加東 12－11 農大三
川口北 31－8 大宮北
八潮 33－0 春日部女
大宮開成 29－4 春日部東
浦和西 22－6 本庄女
川口青陵 41－4 浦和市立

▼3回戦
浦和実 29－8 行田女
西武台 16－11 浦和実
小松原女 28－10 熊谷女
伊奈学園 12－10 浦和学院
埼玉栄 35－8 朝霞
川口北 19－6 草加東
八潮 22－12 大宮開成
川口青陵 26－13 浦和西

▼準決勝リーグ1組
浦和実 24－6 西武台
浦和実 12－12 小松原女
浦和実 14－7 伊奈学園
伊奈学園 13－11 小松原女
伊奈学園 21－15 西武台
小松原女 15－4 西武台
〔順位〕①浦和実②伊奈学園③小松原女④西武台

▼準決勝リーグ2組
川口青陵 19－16 八潮
川口青陵 23－13 川口北
川口青陵 17－14 埼玉栄
埼玉栄 23－12 川口北
埼玉栄 24－13 八潮
川口北 19－12 八潮
〔順位〕①川口青陵②埼玉栄③川口北④八潮

▼7・8位決定戦
西武台 17－17 八潮（4PTC3）

▼5・6位決定戦
小松原女 19－12 川口北

▼3位決定戦
埼玉栄 17－11 伊奈学園

▼決勝
浦和実 17（8－2、9－9）11 川口青陵

千葉県高校新人大会

（1月11、12、15日／京葉高校ほか）

◎第1ブロック

〈男子〉

拓大紅陵 15—14 木更津
京葉 21—12 鶴舞商
房総学園 16—15 市原
京葉 29—10 拓大紅陵
房総学園 18—16 木更津
市原 21—9 鶴舞商
京葉 23—7 木更津
拓大紅陵 22—19 房総学園
京葉 17—9 市原
鶴舞商 19—17 房総学園
市原 16—8 拓大紅陵
木更津 14—11 鶴舞商
京葉 14—14 房総学園
木更津 13—10 市原
拓大紅陵 15—15 鶴舞商

（順位）①京葉②房総学園③拓大紅陵④市原⑤木更津⑥鶴舞商

〈女子〉

東金女子 20—19 御宿家政

（順位）①東金女子②御宿家政

◎第2ブロック

〈男子〉

東京学館 39—1 四街道
東京学館 18—7 八千代
東京学館 26—4 秀明八千代
東京学館 20—11 佐原
八千代 17—5 秀明八千代
八千代 12—8 佐原
八千代 33—1 四街道
佐原 26—2 四街道
佐原 24—6 秀明八千代
秀明八千代 16—12 四街道

（順位）①東京学館②八千代③佐原④秀明八千代⑤四街道

〈女子〉

佐原 44—0 四街道
佐原 27—2 秀明八千代
佐原 17—15 佐原女子
佐原女子 31—7 秀明八千代
佐原女子 49—0 四街道
秀明八千代 16—0 四街道

（順位）①佐原②佐原女子③秀明八千代④四街道

◎第3ブロック

〈男子〉

土気 15—12 若松
千葉南 17—7 明徳
若松 19—11 生浜
泉 17—10 千葉南
土気 16—16 生浜
泉 20—8 明徳
土気 16—14 泉
若松 18—12 千葉南

（順位）①土気②泉③若松④千葉南⑤生浜・明徳

〈女子〉

若松 10—4 泉
生浜 30—15 土気
泉 13—10 明徳
若松 32—1 土気
生浜 16—11 明徳
泉 21—1 土気
明徳 20—7 若松
生浜 19—4 泉
明徳 22—7 土気
若松 15—7 生浜

（順位）①若松②生浜③泉④明徳⑤土気

◎第4ブロック

〈男子〉

▼Aリーグ

船橋東 18—4 幕張北
船橋旭 12—6 船橋西
船橋東 24—12 船橋西
船橋旭 15—4 幕張北
船橋旭 14—12 船橋東
船橋西 16—9 幕張北

▼Bリーグ

東邦 33—6 鎌ヶ谷
東邦 29—9 渋谷幕張
渋谷幕張 19—12 鎌ヶ谷
東邦 12—0 船橋法典
渋谷幕張 12—0 船橋法典
鎌ヶ谷 12—0 船橋法典

▼3、4位決定戦

船橋東 27—12 鎌ヶ谷
船橋西 19—9 渋谷幕張
船橋東 20—14 船橋西

▼1、2位決定戦

東邦 22—9 船橋旭

〈女子〉

東邦 26—10 若葉看護
東邦 33—6 幕張北
若葉看護 34—7 幕張北

（順位）①東邦②若葉看護③幕張北

◎第5ブロック

〈男子〉

我孫子 19—14 柏
柏 23—13 県立沼南
布佐 15—14 沼南高柳
我孫子 38—12 沼南高柳
布佐 19—17 県立沼南
県立沼南 22—16 沼南高柳
我孫子 12—0 県立沼南
我孫子 27—7 布佐
柏 34—7 布佐
柏 33—4 沼南高柳

（順位）①我孫子②柏③布佐④沼南高柳⑤県立沼南

◎第6ブロック

〈男子〉

柏南 25—11 東葛飾
柏南 17—10 柏陵
柏南 19—13 流山中央
柏南 15—12 芝浦工柏
芝浦工柏 13—11 東葛飾
芝浦工柏 14—12 柏陵
芝浦工柏 14—12 流山中央
柏陵 16—12 東葛飾
柏陵 15—14 流山中央
流山中央 20—13 東葛飾

（順位）①柏南②芝浦工柏③柏陵④流山中央⑤東葛飾

〈女子〉

柏陵 12—8 柏南
柏陵 8—8 東葛飾
柏陵 14—4 柏
東葛飾 14—11 柏南
東葛飾 22—5 柏
柏南 24—5 柏

（順位）①柏陵②東葛飾③柏南④柏

◎第7ブロック

〈男子〉

▼Aリーグ

専大松戸 16—6 小金
専大松戸 16—3 松戸六実

松戸六実 17－9 小金
▼Bリーグ
国府台 17－5 松戸秋山
市立松戸 25－11 松戸秋山
国府台 17－9 市立松戸
▼決勝リーグ
市立松戸 19－6 松戸六実
市立松戸 11－9 専大松戸
国府台 10－6 専大松戸
国府台 16－7 松戸六実
〔順位〕①市立松戸②国府台③専大松戸④松戸六実⑤小金⑥松戸秋山

◎第8ブロック
学館浦安 29－5 浦安南
学館浦安 31－13 国分
学館浦安 28－8 市川西
市川西 25－11 国分
市川西 25－15 浦安南
浦安南 19－10 国分
〔順位〕①学館浦安②市川西③浦安南④国分

◎県大会
〈男子〉
▼1回戦
船橋東 20－10 市川西
芝浦工柏 16－14 泉
柏 18－11 船橋旭
国府台 24－12 房総
▼2回戦
市川 30－2 船橋東
東邦 25－7 我孫子
京葉 12－12 3PTC2 土気
八千代 9－7 芝浦工柏
東京学館 33－6 柏

若松 10－10 4PTC3 学館浦安
柏南 21－7 市立松戸
二松沼南 20－6 国府台
▼3回戦
市川 19－8 東邦
八千代 15－9 京葉
東京学館 20－8 若松
二松沼南 20－10 柏南
▼準決勝
市川 25－11 八千代
二松沼南 25－15 東京学館
▼決勝
市川 22（8－7、14－4）11 二松沼南

〈女子〉
▼1回戦
昭和学院 30－2 柏南
生浜 26－5 東金女子
泉 15－11 佐原
和洋 13－11 東葛飾
東邦 21－3 聖徳
若松 11－5 柏陵
佐原女子 22－4 市川西
流山中央 8－5 市立松戸
▼2回戦
昭和学院 22－2 生浜
和洋 16－3 泉
東邦 12－8 若松
流山中央 14－9 佐原女子
▼準決勝
昭和学院 27－4 和洋
東邦 26－1 流山中央
▼決勝
昭和学院 23（14－4、9－4）8 東邦

東海

第32回岐阜県中学室内選手権

（12月11日／岐阜メモリアルセンター第2体育館）

〈男子〉
▼1回戦
大垣東 14－13 那加
江並 12－6 岐阜南
鵜沼 11－10 星和
高富 16－15 松倉
桜丘 15－5 養老東部
長森南 15－12 笠原
蘇原 21－6 日新
赤坂 14－4 羽島
▼2回戦
大垣東 22－17 江並
鵜沼 17－16 高富
桜丘 22－12 長森南
赤坂 19－8 蘇原
▼準決勝
大垣東 17－11 鵜沼
赤坂 18－17 桜丘
▼決勝
赤坂 16（9－9、7－6）15 大垣東

〈女子〉
▼1回戦
笠松 7－2 興文
日枝 13－3 陽南
桜丘 10－5 江並
東山 7－2 稲羽
▼2回戦
那加 12－0 笠松
日枝 9－5 大垣南
中山 8－6 桜丘
大垣西 14－8 東山
▼準決勝
那加 9－4 日枝
大垣西 14－6 中山
▼決勝
大垣西 11（4－6、7－3）9 那加

三重県高校新人大会

（1月12～19日／四日市市体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
四日市 26－5 上野工
津東 棄権 朝明
尾鷲 19－15 上野
四郷 22－11 名張西
桑名西 13－12 海星
桑名工 26－19 川越
津 20－8 四日市西
▼2回戦
四日市工 31－15 四日市
桑名北 23－19 津工
津東 36－12 津西
高田 24－8 尾鷲
亀山 27－10 四郷
桑名西 10－9 四日市南
桑名工 22－10 四日市中央工
桑名 29－9 津
▼3回戦
四日市工 34－4 桑名北
津東 24－5 高田
亀山 26－8 桑名西
桑名 23－9 桑名工

▼準決勝
四日市工 32－6 津東
桑名 15－8 亀山
▼3位決定戦
亀山 30－13 津東
▼決勝
四日市工 21（12－7、9－2）9 桑名

〈女子〉
▼1回戦
川越 23－10 尾鷲
上野 22－2 桑名西
津東 25－6 四日市西
四日市 14－12 津
名張西 16－6 四郷
四日市南 棄－権 松阪女
暁 29－4 桑名
▼2回戦
四日市商 31－4 川越
津東 26－4 上野
四日市 18－6 名張西
暁 25－2 四日市南
▼準決勝
四日市商 21－8 津東
暁 13－4 四日市
▼3位決定戦
四日市 16－15 津東
▼決勝
暁 9（4－4、5－3）7 四日市商

九州

鹿児島県高校新人大会

（11月16～18日／国分市総合体育館ほか）

〈男子〉
▼予選リーグ
出水 19－4 指宿
指宿 16－11 加治木工
出水 21－5 加治木工
鶴丸 23－13 薩南工
鹿児島商 18－11 薩南工
鹿児島商 10－10 鹿児島南
鶴丸 23－8 鹿児島南
加治木 21－7 出水工
出水工 棄－権 隼人工
加治木 棄－権 隼人工
笠沙 11－11 国分
鹿児島中央 16－7 国分
笠沙 13－11 鹿児島中央
甲南 10－10 頴娃
加世田 16－8 頴娃
加世田 17－13 甲南
鹿児島工 20－3 鹿児島高専
鹿児島高専 棄－権 財部
鹿児島工 棄－権 財部
▼決勝トーナメント1回戦
鹿児島中央 20－10 鹿児島商
加世田 21－10 鹿児島高専
鶴丸 20－11 指宿
甲南 17－11 出水工
▼2回戦
鹿児島中央 15－13 出水
加治木 15－14 加世田
鶴丸 22－15 笠沙
鹿児島工 31－4 甲南
▼準決勝
鹿児島中央 14－13 加治木
鹿児島工 29－11 鶴丸
▼決勝
鹿児島工 25（12－2、13－5）7 鹿児島中央

〈女子〉
▼予選リーグ
奄美 12－3 鹿児島中央
国分実 21－2 鹿児島中央
国分実 19－7 奄美
牧園 17－5 指宿
鹿児島南 26－7 指宿
鹿児島南 26－7 牧園
神村 11－11 出水
鹿児島純心 22－3 神村
鹿児島純心 24－5 出水
▼準決勝リーグ
国分実 27－7 出水
牧園 16－9 出水
国分実 18－2 牧園
鹿児島純心 10－5 奄美
鹿児島南 24－5 奄美
鹿児島南 14－6 鹿児島純心
▼決勝
国分実 9－7 鹿児島純心
鹿児島南 24－5 牧園
国分実 15（6－7、6－5、2－2、1－0）14 鹿児島南

第20回鹿児島県中学新人大会

（1月18、19日／国分市総合体育館）

〈男子〉
▼予選リーグ
重富 12－8 谷山
重富 10－5 東谷山
谷山 8－8 東谷山
鹿児島大附 7－7 伊敷
伊敷 16－8 国分
鹿児島大附 13－5 国分
▼準決勝
鹿児島大附 12－6 重富
伊敷 23－10 谷山
▼決勝
鹿児島大附 23（10－3、13－7）10 伊敷

〈女子〉
▼決勝リーグ
鹿児島大附 7－1 東谷山
伊敷 10－5 鹿児島大附
伊敷 12－7 谷山
重富 12－3 谷山
重富 13－2 東谷山
鹿児島大附 9－2 谷山
重富 12－3 鹿児島大附
伊敷 8－8 東谷山
伊敷 8－6 重富
谷山 8－3 東谷山
〔順位〕①伊敷②重富③鹿児島大附④谷山⑤東谷山

男子ジュニアナショナル韓国遠征報告

団長・山田哲雄

今回はスタッフに監督・高橋氏（高校）、コーチ陣に松井氏（大学）、奥田氏（実業団）と三つの立場の経験者で連携良く指導できたし、選手18名は全国から選抜された高校3年生のみの精鋭で、上下関係もないので日本代表初体験であるがスムースに遠征合宿に入れたと思う。

2月23日13時、大阪・大和銀行体育館に集合し、ユニフォームなどのサイズ合わせの後に大和銀行・緒方監督、志賀コーチ、北岡・高体連審判長、辻先生（桃山学院高校）といった方々の激励の中で早速練習を始めた。

夕食は、大和銀行女子部員の方々による手料理のスキ焼きパーティで、お姉様プレーヤーのもてなしで和気藹々の楽しい夕食会だった。大和銀行関係者の方々に心より感謝申し上げます。

翌24日、午前の練習後に大阪空港へ。出発式では、神田・大阪協会会長、東・大阪協会理事長の激励の言葉や関係者の見送りをいただき一同は決意も新たに韓国・済州大学へ向かった。

済州空港では、国立済州大学監督の権教授（国際審判員）とご家族や済州大学部員の盛大な出迎えがあり、歓迎の言葉や教授の二人のお子様から花束をいただき、日の丸ウエアーに身を包んでの国際親善と韓国遠征の重責に一層の緊張感で身が引き締まった。

スケジュールの打ち合わせ、25日午前と午後の練習、26日午前練習と短時間の練習マッチ、27日は午前に練習マッチと午後は市内観光とショッピングに決定した。

練習内容はすばらしいの一語で済州大学は1、2年生中心のチームで身長は高くないが、権先生の指導に絶大な信頼をもってひたむきに純粋にチャレンジする姿に感嘆した。

権先生の指導は、あらゆる場面でパリパリ（早く早く）の連発で行動やプレーのスピードを常に要求し、説明も簡潔であり、短時間で効率よく、集中力を要求した内容であり、日本メンバーが加わるので、インターバルが入ることになり、大変ハードな練習であるのに済州大学部員はほとんど汗が出てこないスタミナにも感嘆した。

また、集中力を欠いたプレーやミスには大変厳しく、罰としてもも上げジャンプ10回やフライングでコート往復を課されていた。アップにもユニークなトレーニングが多く、大いに参考になったし、選手を飽きさせない権先生の指導技術のすばらしさに日本選手もテンポの早い練習を消化できたのだと思う。

練習試合を前にして、済州大学は常に韓国のトップレベルのチームであり、第一GKはジュニア合宿で留守とはいえ、日本チームは選抜チームで、オフェンス、ディフェンスともに不安を感じつつトータルで25分間ゲームを4回実施した。

26日午後は、12対13、27日午前は10対14、18対15、10対7と4戦で2勝2敗の結果である。素早いパスワークからずらされて、両サイドからのパスで中央部からのスカイプレーで何点も決められたが慣れるにしたがってオフェンスとディフェンスともに尻上がりに調子を出し、スタッフ、選手ともに確かな手応えを感じることができた。

4月から選手たちは各大学や実業団に進路が別れることになるが今後の精進努力によって全日本プレーヤーに育ってくれるものと確信する。

今後も今回のような形式でのジュニア遠征合宿を続けていただきたいと切望します。

また、権先生をはじめ済州大学選手や関係諸氏に心から御礼を申し上げます。

男子ジュニア韓国遠征合宿参加者

コーチ	高橋精一	1949. 6. 2	桃山学院高校
コーチ	奥田新治	1961. 6.11	湧永製薬

選手	氏名	生年月日	身長	体重	所属
G・K	大原優一	1973. 4. 4	185cm	78kg	北陸
	坪根敏宏	1973. 6. 4	188	80	久留米工大附
	日原一幸	1973. 7.20	181	70	桜台
F・P	横沢真太郎	1973. 4.20	179	73	東山
	田島寿人	1973. 4.26	187	70	吉井
	芹沢賢治	1973. 4.27	175	63	浦和学院
	辻昇一	1973. 5.10	183	68	学法石川
	関根正行	1973. 5.14	176	65	横浜商工
	中谷友和	1973. 6. 8	181	76	北陸
	広政宜孝	1973. 7. 6	178	65	下松工業
	田中努	1973. 8.14	177	66	兵庫育英
	松永伸也	1973. 8.23	172	64	長崎日本大学
	白川律夫	1973.10.27	185	77	高岡向陵
	熊野秀樹	1973.12. 7	176	64	尾道
	松田雄誠	1973.12.14	175	67	金沢市立工業
	田中信一	1973.12.25	179	65	熊本市立商
	山口武仁	1974. 1. 4	172	65	浦和学院
	林芳純	1974. 2.26	180	65	尾道

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三一九号
昭和四十年六月七日 平成四年四月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成四年五月一日 発行
東京都渋谷区神南一—一—一
電話 代表(418)二二三六一
振替 東京 六—五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円
(年間購読料 三千三百円)

